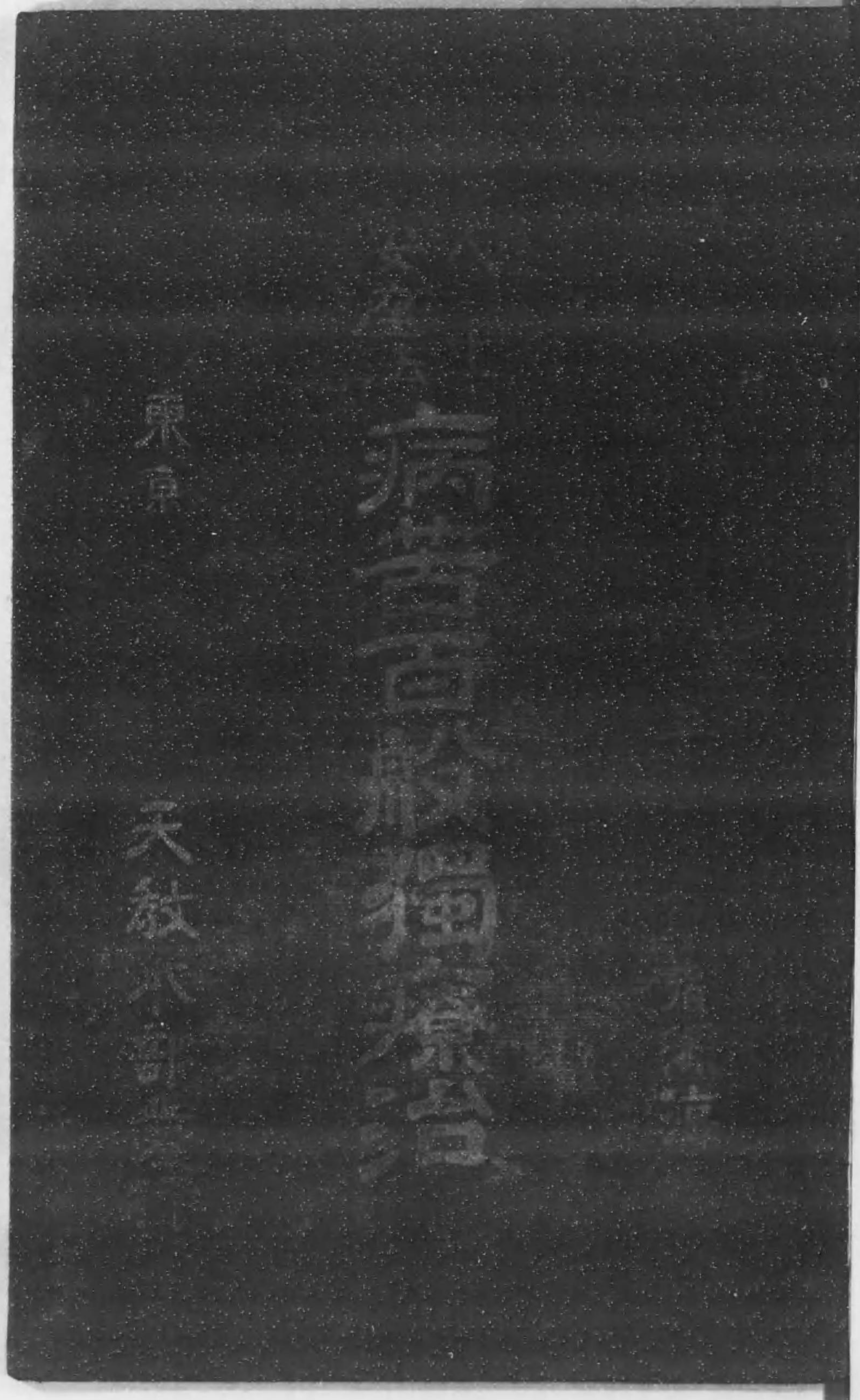


始



時務大廟御真聖

筆者源海

人生安座法 病苦百般獨療治

東京

天教本部發行

物273  
76

非賣品

伊勢大廟御真靈

筆者源海

人生  
安坐法  
病苦百般療治



大正  
14.6.4  
丙交

東京

天教本部發行

*[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]*

煩懣ハルカシ示シ入ニ懷ニ無ク窮ニ御ノ理ヲ能ク知ル人ノ士ト

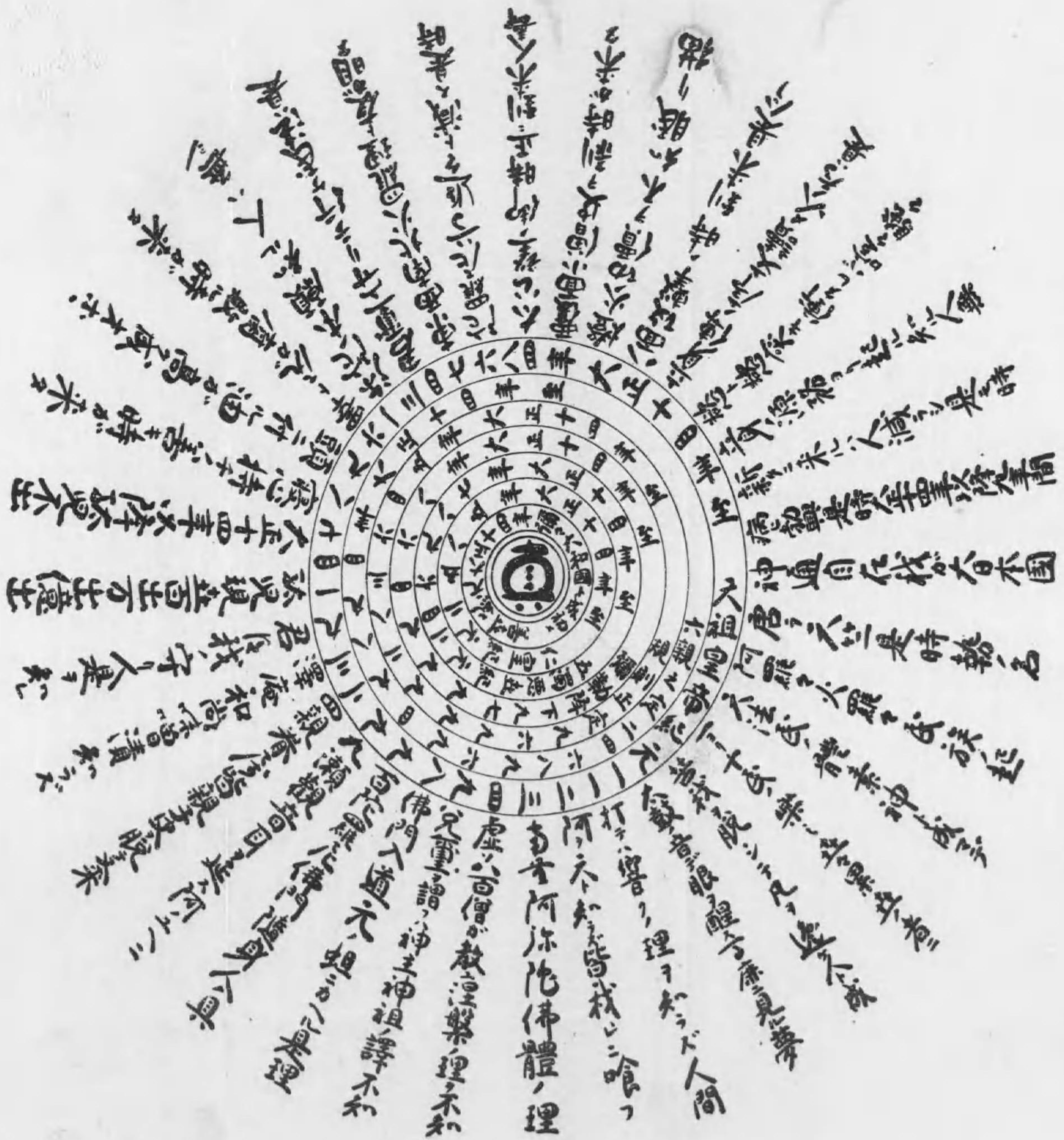
*[Small handwritten notes and signatures in the left margin]*

我大日本國土故人知臨御有皆乎知民在使方是時

大正十四年四月一日  
發行者

源海謹言

煩懣に位に示す人を壞す無窮御理能知人士  
 先成到位御人才在民賦今醒是之御士



我大日本國土故人知信御有皆言子知民在使方是時

五ノ理ヲ知ラント欲スル御方ニテ附録ヲ呈ス  
 大正十四年四月一日

發行者

源海謹書

## 序

此書は人の世に増々困る者多くなりて來るにより夫て此人を救  
んとして出したり夫て心あるの人は此書を見て我が體の爲を爲  
せ又は眞に間違の無き書であるにより讀む人其心して見るが  
よし又はは總て

序

天璽にして人の爲ばかりを載せてあるにより其文章の良し惡し  
を申なよ是は其事には少しも心を置かず唯々人に判明れば良し  
として書したるなり夫て婦人といひ又小供といひ誰にも判明る  
様にとして此書を出したり夫て眞の福音は是にして誰の身に取  
りても此書は必用なり又はは人一生の寶にして此一冊を持ちて  
居れば一家にとりては寶藏なり一家中何病に罹るとも速座にし  
て其療法を爲し軽く事濟むにより是を安全といふ譬へば名醫大

(1)

(2)

醫を我が家に抱へ置くに同じなり是程安神は無し又薬を買ひ求め  
めるの用も無し又人に聞く事もいらす是程便利重寶氣丈夫な事  
は無し是を

天の御授けにして是を天恩といふ皆能く心得てよし夫て此療法  
を爲すに當りては

序

天に御禮を申の心にて眞の心より

天の親様とすがりて爲すなり是を其時の心得方にして是を一切  
叶ふの法にして必ず

天が治さしてやる是を能く又能々心に納めてよし是が大寶典で  
ありますぞへ又人は是を疑ふ必ず損あり夫て疑ふ勿れ是を

天は申て置くにより能々御心得あれよ是は多くの人を助けつゝ  
居る我が天教本部の藏書にして是を此世あらん限りの國の寶也

序

是は幾千萬年経ちても變らぬ療法にして是は人體不變の法にし  
て人は何時にても是なり又法といふ是は人の體の取締なり皆是  
を知れよ夫て

天は親なり夫て是を教ゆ人にはわからぬぞへ是を皆御知りあれ  
よ人は萬代不易なり是を

天といふ人は變り易し是を知れよ

一、孝は百功の元なり是を人は知らず夫て親に不孝を爲す是を馬  
鹿と申ぞよ又是からは尙の事

天が親しく世を制すにより夫て是までとは異ふぞよ是を

天臨時と申ぞよ又天臨時と申事は是までは五濁惡世にして餘り  
天の御かまひはなかりしなり夫が更りと變りて極樂世となりし  
ぞよ又此極樂世と申事は大元の大日本國に成るといふ事なり是

(3)

は御互ひと申て世を暮すに樂くになりて今大正年度の様に我勝は無しとなりて人が大和を爲すにより是を大和國と申ぞよ是が大日本國であるにより皆是を知れよ此國を大和國といふ事は皆御互ひに盡し合ひて行くといふ事なり是が大事にして皆人が此心であれば夫て世は穩やかにして世に變りは無し是を國家安穩無事泰平と申ぞよ今は國家鬼々賊々強平なり是では世は永く續かず是を倒れるの元といふ是を見て居る

天のつらさよ世は天なるを知らず實に不慙といふの外は無し何れ  
天臨は嚴びし是を未來といふ能く心得てよし大正十四年三月三日是を序して以て此世に教へ置くぞよ

## 天の御仰

源海謹書

## 總論

世界萬國皆人而是國謂亦人者何不問喰飲着而此外住也是爲當而日々騷論爲是世也是亦誰爲爲是天知亦是爲而漸賢成是日々而人者死是人一生也是六十九萬偏而人一生終是人生謂是人者不知夫而終日喧騷足是愚者謂誰歟是知哉我者元從不成總而天也是知亦阿謂是日々御照由而成是知亦着是者天惠而人爲事而者無是幾千萬古從是而人者皆是也亦人者泣怒是常是人心謂是人者不悟而居從夫而是也亦國謂是者上中下三別而居是者人勵而是昇謂是世樂謂皆勵而上墮而下是知亦人者何故稼哉是者我身爲人爲而者無是知亦稼而立者世而墮而立國而無是務謂是人者不知無智者是而取處無亦天者何故照是曾人稼爲爲而是陽謂陽者稼也陰者墮是知亦人而理屈謂是馬鹿也我身上不知者是理知故者無是知亦是別而申



(6)

人者一生泣明者は知亦泣明而神成是人故而人者是不知夫而不足謂是曾天下寶而人者國寶也亦今者世而立處無是者時而國兄共政道誤而居夫而是也是從天地親臨御而政事改世萬歲計從是知今者其初而是時謂能心得而世渡真也真也是天

總

大正十四年三月三日是筆者源海書而南

天璽

論

# 毛津田火名志

これを見て

天に御禮を申せよ世の事は一切萬事

天にして何一つとして人に出来る事としては無し朝から晩までの事又寝てから起るまでの事は皆

天にして是を世の者は知らず是を罪人と申ぞよ夫て今よりは是を知り一切萬事

論

天に御禮を申つゝ其日を送れよ是を

天恩を知る人と申ぞよ夫て増々善き事來りて何一つ不足は無しと成るにより是を知れよ今天教本部に於て此本を發行するに當りて

(7)

天が是を教へて置くにより必ず是を忘するなよ又是よりは皆の

者に善良の子を被下により皆樂くをなせよ又小兒を惡敷育るな  
よ是を嚴にして育行けよ教育我が家庭にあり人の手を待つなよ  
人の行末は神にして終は是なり其道中道すがらの事餘り喧嘩口  
論を爲すなよ何んでも和を以てなせよ是を賢人と申ぞよ能く心  
得置けよ

大正十四年三月三日これを著者源海に書して南

## 天の御仰

### 此書を讀む人の心得方

これは天書であるにより其心して御一讀あれ又百千萬讀あれ讀  
めば讀むほど味ありて實に尊し是を御承知あれよ又見て我が身  
に此療法を爲す直ちに功顯あり是を

天の御情けにして是程難有事は此世に無し是を

天の大御心の届きし時に此尊き書の出ずるは

天の御時なり又此時を世に降し給ふ實に世として御禮の申様無  
し是を兄弟姉妹に見せ候て共にく喜ろこべよ又と得難恩書で  
あるぞよ末代までの寶書は是也又此療法を爲すに當りて必ず眞  
の心にて

天の親様とすがりて爲せよ夫で速座にして叶ふぞよ能く心得置  
けよ

## 天璽

大正十四年三月三日　これを著者源海に書して此世に遺すぞよ

源海謹書

## 緒言

此書を見る人の心得として此所に示して置く古しへ豊臣太閤秀吉天下の時代に於て其師とも可申竹中半兵衛なる人あり是は諸學に通ふじて居し人にして是を其頃の大學者にして是に優るの士は無かりしなり又其頃の織田信長は此人を見る事知らずして遂ひに本能寺に於て死せり是を竹中半兵衛は此信長に申て曰く御身は御大身なれども部下を養ふ道に暗し是を御改めあれば御家は末代に榮る申さんなれど是を御心付無くば近きにして御身に御大難あり是を竹中半兵衛御氣の毒に存ずと申たるに信長は何を申か我れに非ありといふは誰である高の知れたる竹中半兵衛何小癩な汝等如き者は我が眼中に無しと申て其竹中半兵衛を退けたり夫で竹中半兵衛は氣の毒に思ひて我れは身を引きしな

り此時安田作兵衛なる者は是を聞きて締めたりと膝を打ちて喜ろこびしなり是は我れにして此信長を討んの心あるにより夫て先づよしと安堵爲せしに依る其後間も無くして信長は此安田作兵衛に討れ後ちの世までも家名を穢がしてなり是を己我の人にして是を大馬鹿といふ人は何んでも我れに非はありわせぬかと我れに是を進みてさがす様でなくては眞の賢智人とは申せず今是を此書發行爲すに當りて

天是を申て置くにより誰の人も是を知られよ又是は人の常にして我れは人より賢なりとふ是を必ず後ちに泣く人にして是を大事といふ能く心得てよし又此書は人にして知る事の出来ざる事を示し置きたれば是を疑はずして此通りを守り行け又病氣の療法は吃度必ず無間違治す事を示し置きたれば其心して此書に

依りて皆此療法を爲せ夫て早く治して樂くなり又金もいらす皆我が家にて出来る事は人生の安座法にして是より良き事は無し是を皆了されよ又此書は

天の御申付によりて著者源海筆を就らして頂きたり是を皆知られよ人といふ者は免角疑ひ多くしてならず是を損といふ又人と人との事なれば十分疑ふてよし殊に今大正年度の人は先づ十中の十まで嘘そと思ふてもよし是は今の世であるにより先づ眞實は無しと思へ是が大事の大事にして是をころばぬ前の杖にして是を最も大事の事よと知れ夫て申て置く我が天教の教へは一心以て眞の心より

天の親様と申てすがり頼めよといふの教へにして此外に無し是が大慈悲の天の親の御教へにして此一つにして一切叶ふにより是

を皆知れよ又此療法を爲すに當りては眞の心より  
 天の親様と心にすがりつゝ爲せ夫で一層早く治して早く安神が  
 出来るにより皆是を忘するなよ又此書は我が天教の信者共に家  
 の備へにとして此書を出したり是は人として何時如何なる事の  
 あるとも知れず第一人の安神は健全にあり是を守る爲の  
 天の御注意の書にして一般人士の爲は是なり何より尊し是を知  
 りてよし又病氣といふものは多く我れの氣心より出ずるにして  
 是を十中の九までにして此外は祖先傳來の罪み又人の祈りとい  
 ふ又人より悪敷ものを移つして困るあり是は多く狐狸、又天狗、蛇、  
 の靈にして是は人にのりうつり人に對し色々の事を申なり是は  
 何れも狐狸、天狗、蛇、にして此外に無し是は今日まで五濁惡世中の  
 悪敷者共が死して行く所に不行して居る其靈なり是はナカナカ

のいたづらを爲す既に世に於て狐付と申是なり是は元世に居り  
 し時の縁故の家に來りてなり是は元より縁故の者であるにより  
 夫て來る是非は無し是は世の事にして申と我れ金持である多く  
 の親類が貪乏人である夫うるさく金を借りに來る是と丁度同じ  
 にして是を縁といふ縁無き道は渡れず皆是を知れ世に於て精神  
 病者といふ氣違ひといふ是は皆此惡靈の付て居る者にして是は  
 縁故其理より來て居るにして縁の無き者は不來皆是を知れ氣違  
 ひは多く天に見棄られし者にして是は大體に於て良く無し何れ  
 かに其心を持ち居るにして是を惡者といふ夫て天が御見棄あり  
 是は不治又癒せず是を治すは天にして其一家の者皆心を合し  
 て一心に

天の親様と眞の心よりすがり頼めば天が許してなり夫て治すな

れど又此家の者共が其心に成れずして却而  
 天に逆ふ事而已を爲す夫で治せず皆是を知りて置け夫で今の世  
 には此氣違ひ満員なり唯々其日の事を我れにして爲し居る丈け  
 にして其眞の道を正せば皆軌道は外ずれて居るにして是は今の  
 世が餘りに生活困難にして辛き故なり夫で我れも人も皆狐たり  
 嘘そをいふ事皆上手と成てなり是が即ち輕症氣違たり皆能く御  
 心得あつてよし

一、人道といふ是は人知りて知らず是を守るの士先づ無し上政事  
 を執るに付て多くの金を誤麻化す又民が税金を納むるに付て其  
 商ひ高を誤麻化す實に取る所は無し是を正者とは申せず又人を  
 導引といふ僧侶、神主が人を誤麻化す誰一人りとして正の字の付  
 者も無し是で常識とか非常識とか申て居る又日々人に報道を爲

す申さば是ぞ正者で無くてはならず夫が大のごろつきにして一  
 つとして見る所取る所無し皆十把一束にして上だ下だと申て居  
 丈けにして其眞想にとりては差無し是を今の世にして世の破落  
 漢は多し唯荒くして爲すか又柔わらがにして爲すかの違ひある  
 丈けにして取る事に付ては皆同じなり是を何れの人も能く御心  
 得あつてよし夫で世の事は別に争ふ所も無し皆我れを顧て互ひ  
 に御愼みあれ夫で世は丸く治りますぞへ是を今  
 天が申て置くにより能々御心得あれよ是は人の愼み事又愼  
 みは害は無し夫で病氣も不起不出是を安全法にして總て人は我  
 れにして苦るしむ又病む是を常とす又人にとりては是を見る其  
 心に不満の方もあらん是は何れ近きに行く人にして  
 天の大御心に添ぬ人にして是非は無し是を何れの人よ能く御心

得あれよ又此書は總て  
天璽にして人の申事では無し無常尊の  
御璽是也

是を能々御熟讀あれよ眞に味がありますぞへ  
天の親の厚き温き大御心は是にして是を尊しと知られよ又近き  
未來に於ては天の御しかりにして寢耳に水の事あり是は  
天臨にして是非は無し

天親たしく世に臨み給ひて此世を改め給ふ是を時なりと知られ  
よ今年の九月には又色々の事がありますぞへ是を今より御承知  
あれよ先づ是は是として筆を止めさす

## 天璽

大正十四年三月三日是を著者源海に書して南

## 人害無毒の法を教へて置

是は男たる者は日々頭を毎朝顔と共に夏は鹽水冬は鹽湯にて洗  
へ又此時に胸も拭け是を毎朝として一生爲せ夫て一生首より上  
の病ひは無くして濟むにより皆是を守りて爲せ又

婦人としては毎日口を鹽にて研がけ又前へを鹽湯にて洗へ是を  
日々に怠らず爲せ夫て一生無事なり又健兒を産む夫て世に害を  
除きて國家安全なり是を此上無き男婦の衛生にして是に優る衛  
生法は無し是を人害無毒無病健全の法にして是を大法として皆  
守れよ又此手當の出來ざる間は鹽水にて良し皆是を知れよ

## 天璽

大正十四年三月三日是を示して置く

# 人の心得として

緒

昔し櫻川五郎藏といふ角力あり是は角力取りの鬼にして是を一心太助といふ者が取つて押へてなり是は如何して取つて押へしやといふに名前の如く一心にして是を善者といふ是を天が助けて夫で鬼の様な角力が取つて押へられしなり是を善惡の故にして今の世は丁度是と同じなり又今は善としては僅かより居らず是を今大正年度にして今は悪七善三にして是を見て居る天のつらさは又格別なり是を不慙に思ふぞよ夫で大正十四年度よりは別けて

言

天が此悪共を征伐して此世を改むるにより是を知れよ夫で世には不思議といふ事數あるにより是を知れよ又是は時にして惡の世は終りなり又是は五濁惡世の終にして是を



天の御定めにして是が時なり夫て五濁の者は皆時が来て行くに  
より是を知りて居れよ又此本を發行爲すの故は其残りし善の者  
に樂くを爲さす爲にして是を  
天恩の書と知れ皆是を慎んで拜讀爲せよ是は凡夫といふ者の見  
るべき書にあらず是は抑  
伊勢大廟の産み給ひし善性の者の見る本にして是は其親の心な  
り見る人讀む人其心して見られよ今茲に  
天が申て置くぞへ

### 天璽

大正十四年三月七日是を筆者源海戸田爲治郎に書して此世に遺  
し置くぞへ

### 赤兒三歳までの育方

是を教へて置く人といふ者は子の育方を知らず夫て子供も又親  
我れも後ちに難義を爲す是を知れ眼病といひ又フキデ物、ツンボ、  
顔面全部の病ひは皆親より受けし毒によりてなり夫て赤兒とい  
ふ者は三歳まで毎日鹽湯に入れて洗ふてやれ是を其毒取りにし  
て是より良法は無し夫て無毒となりて後ち害は無し是を能く心  
得置き又オムツをぬらし置くあり是は後ち其冷へにより寢小便  
を爲す是は又大害あり後ちの諸病皆是より出る是を知れ夫て幼  
き時の注意又手當は百効ありて後ちの憂ひを皆除きてなり是を  
知れ不性の母は皆子を悪敷者と爲すにより其夫たる者は是を嚴  
敷注意してよし又母にして寢好きあり是は又其子を殺す是は常  
に寢る事を好みて其子を粗にす是は一切に付て是なり夫て其子

後ちに難義を爲す是は皆親によりてなり夫で貧者の子は多く馬鹿なり其中にも賢母の子賢にして其家を建直してなり是は總て親の育方によりてなり又人として子を憎むあり是は可愛がれども其憎むの理は唯々子に物を與へてなり是は憎むと同じなり能く心得置け虎は三食の外子に與へず又鳥は日に七十三度はより不與又熊は二度にして是は辛抱を見る又犬は可成子には食を與へず是は其子がなまけと成からにして是を親の心といふ是は皆天よりの備りにして是が理なり人者は是を知らず夫で不自然と成りて弱し皆是を知りて置け夫で

天といふものは悪數は數へず大事くと爲め計りを人に教へてなり夫が人には知れずして却而あざけるあり夫で其者が何か存じて居るかといひへば唯々飯しを食して居る丈けにして何も知

る者では無し實に世程淺なるものは無し第一

天は何ものといふ事を知らず夫で一切無智なり夫が何んの彼のと理屈をならべて居る是を

天からいふと一つの動物が喧嘩して居るに同じ何んの爲にもならぬ事に皆力を入れ我田引水は是にして實にやる瀬無し増して今の世は上下一般是にして此本を見せてやるのも毛津田火名志此文字を見て世の何んたるを知れ世は

天の御物にして人の物とては一物も無いぞへ唯々生て居る内一切を無賃で貸して置くのである是が知れずや淺なり淺なり能く皆さん御考へあれよ人生を知るのは是でありますぞへ

天の御仰は是なり夫で子も育つ是は

天が皆育てなり人は其世話を爲す丈けにして夫が届かずして皆

我れと我れで泣くのである世の上下一般の子を見て少しは其良  
 非を知るがよし皆御承知あれよ賢者の子に賢者無しとは皆育な  
 り是が馬鹿であるにより夫て馬鹿なり白痴なり能く悟れく

天授

大正十四年三月十日是を筆者源海に書して世に伸

胃病	胃癌	胃擴張	胃弱	胃痙攣	胃潰瘍	胃癩	咽喉加答兒
.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....
一	二	三	四	五	六	七	八

目

次

實布的里亞	氣管支加答兒	口中爛	口中腐敗病	腸チブス	腸加答兒	慢性腸加答兒	急性腸加答兒
.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....
九	十	十一	十二	十三	十四	十五	十六

肝臓炎	腎臓炎	心臓炎	貧血諸病	腦溢血	腦貧血症	腦充血	肺病	感冒
.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....
二十五	二十四	二十三	二十二	二十一	二十	十九	十八	十七

外耳炎	中耳炎	骨髓炎	骨膜炎	肋膜炎	肺炎	腹膜炎	盲腸炎	腦膜炎
.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....
三十四	三十三	三十二	三十一	三十	二十九	二十八	二十七	二十六

膀胱炎	睪丸炎	卵巣炎	扁桃腺炎	接護線炎	肥厚性鼻炎	口内炎	耳下垂	耳下線炎
.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....
四十三	四十二	四十一	四十	三十九	三十八	三十七	三十六	三十五

條蟲箴蟲	脊髄病	肝臓病	腎臓病	心臓病	痔瘻	痔	糖尿病	尿道炎
.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....
五十二	五十一	五十	四十九	四十八	四十七	四十六	四十五	四十四

爛眼	近眼	亂視眼	トラホウム	眼病底翳	眼病	脚氣	十二支腸蟲	蛔蟲
.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....
六十一	六十	五十九	五十八	五十七	五十六	五十五	五十四	五十三

卵巢病	麻疹病	黴毒瘡毒	黃疸症	膽石	痰咳	丹毒	喘息	盲目少治法
.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....
七十	六十九	六十八	六十七	六十六	六十五	六十四	六十三	六十二

乳房病	月經痛	血の道	婦人病一切	産前産後	顔面神経	座骨神経痛	神經衰弱	尿道病一切
.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....
七十九	七十八	七十七	七十六	七十五	七十四	七十三	七十二	七十一

逆上症	腦病	寢小便治法	惡阻	常習便秘症	婦人の前又口臭者	腋臭	月經不順	乳房痛
.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....	.....
八十八	八十七	八十六	八十五	八十四	八十三	八十二	八十一	八十

後頭痛	八十九
頭痛	九十
肩張	九十一
齒痛	九十二
百日咳	九十三
鼻病一切	九十四
中風	九十五
レウマチス	九十六
ハシカ	九十七

天然痘	九十八
汗斑	九十九
脾臟	百〇
痲痺	百〇一
風土病	百〇二
書經	百〇三
濕癬	百〇四
般暈	百〇五
虱血	百〇六

瘰癧	百〇七
トクト病	百〇八
指瘡	百〇九
シモヤケ	百十
タムシ	百十一
小兒頭疥	百十二
フキデモノ一切	百十三
腫物一切	百十四
肥伴症	百十五

皮膚硬化病	百十六
甲狀線腫	百十七
腐骨病	百十八
臍腐敗病	百十九
雁瘡	百二十
吐血の時	百二十一
啞及ビ吃	百二十二
脹滿	百二十三
腹腫物一切	百二十四

目次	次
吃逆	百二十五
水蟲	百二十六
癩病	百二十七
赤黒瘰除法	百二十八
白雲取法	百二十九
喰合惡敷物	百三十
犬猫鼠ニレシマ時	百三十一
毒蟲ニ整時	百三十二

目次終

火傷のまじなひ

壽久理滿壽

是を三度唱へて口に  
て吹け夫で直ぐ治す

天の御教へ

人生病苦百般獨療治

胃病

治法 病 般 百 苦 病

一

源海著

是は人の持つ病ひにして百人皆是あり是は食の受附にして一番  
 大繁忙の處夫で早くいたむのである是を人は知らず夫で皆惱や  
 むのである是は如何して治すやといふには是は食は三度にして此  
 外は悪し是を第一に心得てよし又は是は撃きすれば尙早し夫で胃  
 を損ね候時は固き物を食して其後とて水を飲むなり夫で胃は驚  
 きて食を消化す夫で申さば眠りを醒すに同じ夫より鬱つを除き  
 て百種百般を消化す夫で心に快を覺えてなり是を胃を損じたる

時の第一の療法にして皆是を知るなり又大根をオロシテ其汁を胸の水落ちと稱する所に日に三度三日間ぬるなり又食事毎に煙草の脂にを少し宛つ舐めるなり又食事後に必ず水を飲むなり夫で必ず全治す

## 胃 癌

### 一一

是は人の心の作用によりて起る事にして是は多く人として無理な事を爲し夫が常に我れ心に苦を覚え夫が寝ても醒めても忘すれる事が出来ず夫で胃が眠むるにより夫で一つの皮を生じ其皮と胃の囊の間に熱を持つにより夫で其の間に腐敗を生じて夫が段々と腐敗れて遂ひに胃の全部を腐敗す夫で命ちは無し夫で此病ひに罹りたる時は酢を多量に飲みて其後とて墨を極く濃くすりて是を舐めるなり又小豆の餡を胸全體にぬるなり是を總て日

に三度廿日間又食事毎に水を多量に飲むべし是が此病ひの療法にして此外に無し是を極く輕症者は六七週間續けて爲すなり夫で全治す又此時に當りては食事を必ず三度と爲し總て粥ゆを食す事

## 胃 擴張

### 一二

是は總て馬鹿に多く出る病ひにして是は三度の食事を無理に喰ふ夫で胃と腸を損ねてなり是は治療して功は無し夫で此病ひに罹りたる時は第一水を毎日何回となく飲みて胃を干すなり又食を慎みて少量となせ又水を多量に飲め是が良し又頭の眞に水をぬり付て其處に白砂糖をぬれ又此外飲みものを禁ず是を總て六週間守りて爲せ夫でよし又食事の度毎に白砂糖を舐めよ是を食事後三時毎に爲せ又頭と胸に大根をオロシテ其汁るをぬれ是は



日に三度三日間又胸の後しろに當る脊中にもぬれ是を三日置き  
て又三日ぬれ此通りに十回ぬれ夫で良し是は食を慎まぬと全治  
は無し是を能々心得てよし

### 胃の弱き者

#### 四

是は總て不性者に多し是は常になまけるからの事にして是は其  
者の心なり夫で此病ひある者は大多忙の事を爲させるなり又此  
外多く居職をなす者に多し是は眼を使ふ事をなして體に樂くを  
するからの事にして是は寢に就く前に一時間宛つ極く汗せの出  
る事をして寝るなり是を每晚爲してよし又是は極く簡易にして  
出来る事は俗に申スワリ角力又重量の物を上げ下げ爲すもよし  
又座を立たり座したり是を百度爲すもよし又頭の上より重き物  
を冠りて立居を爲す其外は一里の道を逸足で往復するも良し夫

で薬も又療法もいらす夫で丈夫と成る又常に辛らき物を食して  
良し是が胃弱の療法にして此外に無し是を皆守りて爲せ夫で長  
生す

### 胃痙攣

#### 五

是は多く冷性の者に多し是は腰と足を温めてよし此温めるの法  
は第一腰に油をぬり又鹽湯にて腰湯をなし又眼を鹽湯にて蒸す  
なり又婦人としては腰と下腹に油をぬり又前の所に酢をぬりて  
よし是を總て日に三度宛つ三週間爲せ夫でよし是は總て人の多  
く持つ病ひにして是は婦人の毒より來る夫で子供としては其母  
の毒にして又妻持ちは其妻より受ける毒なり是を世の害といふ  
夫で此毒を取去るには玉子の皮を百個水二升と能く煮て是を三  
合と成るまで煮詰めて是を三日間に其汁丈けを飲むなり是を三

週間置きては五回又は十回爲せば夫て一生は樂くなり又此毒は諸病を發す夫て皆注意して此手當又療法を爲せ是を其家の爲と申ぞよ皆是を守れば國家安全にして國の富は是なり皆御心得あれよ

### 胃潰瘍

### 六

是を教へて置く是は胃と府との中惡し夫て是なり是は酢と玉子と煮て是を食すれば夫てよし又玉子の皮を三十個是ホウロクの上にて黒焼きにして是を極く細末にして是を酢にて飲むなり是を三十度びに飲むべし又頭の眞に鹽と頭に付る油と能く煉りまぜて是を日に三度廿日の間ぬるなり又水を日に三度は必ず飲むべし又颯に日に三度酢をぬれ是を廿日の間又股に酢をぬれ是は日に一度廿日の間又水を脊の中程にぬれ是は日に三度三日の間

又手と足に水をぬれ是は日に三度廿日の間先づ是てよし夫て一心以て

天の親様と心にてすがる事を忘するなよ是は重い病氣であるに より一心以て天にすがり頼めよ

### 胃癩

### 七

是は胃に不足ある故夫て痛む此療法は第一に酒を胸にぬれ是を一時間毎に十回ぬれ又胸を水にて拭け又手足を水にて拭け又酒を頭の眞にぬれ是は日に三度三日間又足に酒と酢と混交せてぬれ是は日に三度十日の間又玉子の白味を頭の眞と胸にぬれ是は日に三度廿日の間又大根をオロシテ其汁るを胸にぬれ是は日に三度三日の間又胸より下腹まで酢をぬれ是は日に一度廿日の間又酢を飲め是は毎日盃き一杯宛つ廿日の間又尻前、傘を鹽湯の

中に少し酢を入れて此湯で毎日廿日の間洗へ又口を鹽にて研が  
け夫で良し

### 咽喉加答兒 八

是は鹽湯にて蒸してやれ又白砂糖を湯にて溶きて日に三回ぬれ  
又胸を鹽湯の中に酢を入れて此湯にて拭け又總身全體も此湯に  
て拭け又頭を鹽湯にて蒸せ是を何れも三日の間夫で良し

### 實布的里亞 九

是は惡熱咽喉にからみてなり夫で頭及び顛の下即ち咽喉どを辛  
らき鹽湯にて蒸せ是を十回夫で解熱して直ぐ良し又總身全體を  
鹽湯にて拭け又咽喉どに油をぬれ又白砂糖湯をぬれ是を二時間  
置きにカワル、ガワルに十回宛つぬれ夫で心配無し必ず治す又熱  
より來る病ひは一切鹽湯で蒸せ夫で早く治すぞよ皆心得置天授

### 氣管支加答兒 十

是は熱の爲に來る夫で頭を鹽湯又鹽水にて洗へ又胸より下腹ま  
で酢をぬれ是は日に一度廿日の間又酢を飲め是は毎日盃きに一  
杯宛つ廿日の間又此酢を飲む事出來ざる時は總身全體を日に三  
度酢にて拭け又全身不殘鹽湯にて拭け是を十日の間夫で良し

### 口中爛 十一

此病氣は眞熱又胃熱つより來るにより此時には口を鹽湯にて洗  
へ又胃と腹部に白砂糖を湯にて溶きてぬれ是は日に一度宛つ又  
頭の眞に鹽を口にて噛みて是をぬれ是は日に三度又大根をオロ  
シテ其汁るを頭全體首肩の廻り又胸にもぬれ是は日に三度右何  
れも十日の間又頭と尻を鹽湯にて洗へ頭は日に一度一日置きに  
尻は毎日是を何れも十日の間夫で治す

## 口中腐敗病

## 十一

是は腦より來る是を防せぐには第一頭を鹽湯の中に少し酢を入れて此湯にて日に何回となく洗へ又胸より下腹まで酢をぬれ是は晝夜にて三度廿日の間又口中を鹽湯にて何度となくうがひを爲せ又腦天に酢をぬれ是は日に三度廿日の間又尻前、臍を毎日鹽湯の中に少し酢を入れて此湯にて洗へ又兩耳を鹽湯にて蒸せ又酢を飲め是は口中が少し良くなりてから後ちの爲に毎日盃き一杯宛つ廿日の間夫てよし天

## 腸チブズ

## 十三

是は腸に故障を生じて夫が爲め發熱するのである是は極くたやすき病ひにして此熱つを取れば夫てよし夫て此病ひに罹りたる時は頭と胸、腹、全體を辛らき鹽湯にて蒸せ是を凡そ十五六回爲せ

## 腸加答兒

## 十四

ば夫てよし又此時に鹽湯と白砂糖の湯とカワルガワルに二三十杯飲め夫て直ぐ治す又此時に食事としては粥ゆの中へ鹽少しと白砂糖を多量に入れて甘くして食せ夫て體に少しも障りは無し一番早く治す病ひであるぞよ又氷で冷やす事は固く禁ず是を死ぬ元と知れよ是が死因となるぞよ天璽

是は總て腸の不足より來る夫て此時に當り腹痛む時は未だノ、其毒あるにより鹽湯をあびる程飲むなり夫て不殘下りて害は無し又其後とて鹽と玉子と能くねりませめて是を胡麻油に漬けて三時間の後ち是を又酢を少量加へて是を少し煮て食すなり夫て後とにての害又恐れは少しも無し是は一度にてよし又其量は玉子二個鹽一摘み胡麻油十五滴き酢十滴き是を量として爲せ夫て如

何なる下痢病でも治す又後との憂ひは無し又此時の食物は薄き粥ゆに限る是を下痢病一切の療法にして天の教へは是なり能く心得て置きよ又此時に頭、手、足、是を鹽湯にて十回程拭けよ是は體だに出し毒取りてあるぞよ體に鹽は百功を奏す

### 慢性腸加答兒 十五

是は腸に締め無し夫で直ぐに下痢す是はダラシナク喰ふ者に多し夫で食を極めよ三度の食事の外間食を爲すな又此者は常に居眠りを爲す是は食がもたれてなり又胃の働きわるし夫で是なり是を馬鹿といふ能く身を顧みて一切を改めよ夫で療法は手足を水にて洗ひ又胸を鹽湯にて拭け又胸の後しろに當る所の脊に酢と白砂糖と混交せて是を日に三度ぬれ又足と手を時々鹽湯にて拭け又頭の眞に酢をぬれ其は日に一度廿日の間又尻、前、臍、是を鹽

湯の中に少し酢を入れて此湯にて洗へ是を日に三度十日の間又兩耳と顔全部を鹽湯にて蒸せ夫でよし天授

### 急性腸加答兒 十六

是は腹部に毒ありてなり夫で此時に出る便によりて其病源を定む夫が赤ければ痔より來る白ければ腸の腐敗れ青ければ胃の爛れ又茶色なれば肝臓より來る夫で赤き時には茶を飲め又鹽湯を飲め是を五六杯續けて又白砂糖湯を頭と胸にぬれ是を一時間毎に十回又白ければ胸と腹に酢をぬれ是を二時間毎に五六回又白砂糖湯をガブ／＼と十杯も飲め又青ければ胸と腹に味噌を酢にてペト／＼にして是を白紙に延ばして張付よ又鹽湯を極多分に飲め又腰を辛らし湯にて温めよ又辛らし湯を爲すは此時に限る又茶色なれば白木綿布又綿を黒焼きと爲し是を酢と混交せて能

く煉り是を胸と腹とにぬり付よ又頭の眞にも是をぬれ又酒を總身全體に手にも足にもぬれ是を一時間毎に十回夫てよし是を今天が教へて置くにより是を忘するなよ又食物は粥ゆを食せよ天

## 感胃 十七

是は悪氣に觸れてなり夫て鹽湯と白砂糖湯を双方カワルガワルに浴びる程飲め夫て直ぐ治す又頭と胸を鹽湯にて拭け是を三日間又脊中も同じ湯にて拭け夫て良し是を必ず疑がわずして爲せ天の御教へ是也皆能く心得置けよ

## 肺病 十八

是は其性にして自發は餘り無し是は多くは茶の毒にして茶好きの子に多し是は冷々々にして其身に溫度は餘り無し是を茶の毒といふ夫て此病ひに罹りたる者は多く色白にして肉付悪し是は

茶の爲に冷てなり又是は縁類より來る遺傳病にして今此大日本國中に三四分もある是は永く茶を飲み續けしに依るなり夫て茶を飲むに當りては能く茶をホウジテ狐色と爲し然して飲むなり夫て害は無し又是を古しへは人殺ろしに用ひたり多く牢獄に鎖ながれし大悪人を是を以て殺したり夫て茶程毒な物は無し是を人は知らずして飲む實に氣の毒千萬なり夫て肺病に罹りし者は情慾深し是は茶の氣より起るにして是は陰であるにより夫て陽を好む是を慎めば早く治すなれど又是が慎めずして皆死す是を肺病患者の常とす夫て是を病む者は煙草の脂にを常に舐めて良し是を其消毒にして是が第一なり又世にて茶を飲む事を教へしは古しへ山城國宇治の里に龍法寺と申寺あり其寺の和尚は仙山と申てナカノの者又是の甥に山城日短と申て時の天下を望む

者あり是に天下を取ら爲んとして人に茶を飲む事を教へ然して  
 我の甥に敵する者に此茶の毒を窃に飲ましては殺し既にして九  
 百六十七人を殺して我れの甥を守立しなり夫て此時天より命を  
 降して人に煙草を吸ふ事を教へてなり夫て煙草のニコチンは茶  
 の毒を消す又煙草のニコチンは鹽が消す夫て茶を飲む者は煙草  
 を吸へ夫てないと皆茶の毒によりて死ぬにより是を知れよ夫て  
 茶を好む者は多く健兒を不得弱者多し是は茶の毒によりてなり  
 又眼を病む是は茶の氣に由りてなり夫て茶の文字は艸冠に人又  
 木を書く是は人の氣にして人の氣は地氣にして地氣は惡氣なり  
 是を人は知らず夫て人は茶を好みてなり是を人殺しの物とも知  
 らずして居る世の愚ろかさは是なり能く心得てよし夫て肺病患  
 者は第一に胸を鹽湯にて蒸し又胸を年中鹽湯にて拭くなり夫て

體は健と成て面白し是を能々心得てよし又肺部全體に酢をぬり  
 てよし是は大の毒取りにして是が一の療法にして是が天授の療  
 法なり能く心得てよし又此病ひの者は我れに是ならば良しとい  
 ふまでは男女交合を禁ず是を第一の心得にして是を犯すと又直  
 ぐに元に戻りて不治と成るにより是を知れよ又是は既にして天  
 に棄られし者と申ぞよ夫て心にて天の親様とすがりつゝ此療法  
 をなせよ夫て

天の大御心に叶ひて遂ひに治す是を知れよ天授

## 腦充血

## 十九

是は凝りにして餘りに熱心すると是あり夫て人といふ者は氣を  
 散んじては事をなすがよし夫て長生と成るにして是を人の大事  
 といふ能く心得てよし又此時に當りては第一腦を鹽湯にて蒸せ

是を十五六回夫で先づよし此外は心を休めて靜養なすを良とす又眼に見ず耳に聞かずとして居るなり又はは不治性と直ぐ治すとあり夫で體には溫度是を與へ候て別に服藥とては無し是は一時の事にして其氣心さへ落付ば夫でよし是を療法と知られよ天

### 腦貧血症

#### 二十一

是は常に心の騒ぐ人にして是ぞ不治症といふてもよし我れ自らが心を平らに持ちて治す事を計るなり又此症の者は大體に於て弱し夫で是なり是を治す醫は先づ無し夫で教へてやる此症の者は第一辛らき物を日々に食せ是は辛らし、唐辛らし、山葵、生薑の類又里芋、蓮根、無花果、慈姑の類是を常に心懸けて食せ夫で何時となく純血増して心は落付により是を大法の大療法にして此外に無し能く心得てよし天授

### 腦溢血

#### 二十一

是は又親の譲りなり是を親より子にと譲るものにして是を性と  
いふ是は狸より狐、狐より狸といふ其性にして是は人を嘯ました  
る罪にして是を傳來といふ然ればなり是は古しへ此世に神漏氣  
なる者居り是が産みし其者等は何れも大悪性にして是を狐、狸、蛇、  
又天狗の性にして是は元より人で無し時を得て人の體を爲した  
るまでにして其起りは糞の中の蛆なり夫で義も忠も又孝も無し  
人倫五道の道は辨へず夫で何かと悪敷を爲す是を今大正年度の  
人に多し夫で此病ひは治せずといふ其譯けは何時起り來るとも  
知れず又此譯けは元産みし所の親の靈が一度來ると直ぐに起る  
にして此惡靈の來る事を嚴禁すれば夫こそ根治なれども是を人  
にして嚴禁爲すの道ちも無し又同類であるにより我れより呼ぶ



となる夫て是非は無し夫て是よりは此病ひにて死す者多し是は今五濁惡世は終へたるにより此属族は皆死して行くにより夫て皆を誘ひて行くにより何時來るとも知れず是を此症の者共の終り時にして是が時なり時勢にして是ぞ全く是非は無し夫て唯々遅し早しの差ある丈けにして是は全く是非無し能く御心得あつてよし天は今是を申て置きますぞへ

### 貧血諸病

#### 二十一

是は先々厄介者なり大體にして其備り悪し夫て是なり是は常に辛らき物を食し又蓮根、芋、慈姑、又無花果、是を食せ夫て純血増し來りて丈夫と成る又辛らき物としては山葵、生薑、辛らし唐辛らしの類又味噌汁るを吸へ是を常に心懸けよ夫てよし藥りを飲むと尙いかぬぞよ此病ひの者には藥りは無いと思へ又禁食物としては

總て柑の類是は腹部を荒す又サイダ水の類是は悪し能く心得て置け又一心以て

天の親様と眞の心にてすがれよ夫て不思議に良くなるぞよ

### 心臓炎

#### 二十三

是は心臓に故障あり夫て是を治すには第一鹽湯にて蒸し又頭を鹽湯にて蒸し又頭と兩脇又乳に酢をぬるなり是に日に一度廿日の間夫て根切と成る又手足を能く鹽湯にて洗へ又胸より下腹まで白砂糖を湯にて溶きてぬれ是は日に一度廿日の間夫て治す是は重き者の爲に教へて置くぞよ天

### 腎臓炎

#### 二十四

是は尿道に熱を持つ夫て下腹全部を極く辛らき鹽湯にて蒸せ是を續けて十回宛つ三日間又其後とへ白砂糖を湯にて溶きてぬれ

是を晝夜にて三度三日間又頭、手、足其外總身を鹽湯の中に少し酢を入れて此湯にて日に三度廿日の間拭け是で全治す

## 肝臟炎

### 二十五

是は眞に疲ありてなり夫で顔面全部を鹽湯にて蒸せ是を日に三度廿日の間又耳、眼、口、鼻、是を別けて辛らき鹽湯にて拭け又胸、腹、全部に酢をぬれ是は日に一回廿日の間又兩手兩足にも同じく酢をぬれ又口を鹽にて研がけ又婦は前、男、臍、是を鹽湯にて毎日廿日の間洗へ又酢を毎日盃き一杯宛つ三日間飲め夫で全治す天授

## 腦膜炎

### 二十六

是は多く人の崇りにして是は恨みなり夫で人の困る又泣く事をするなよ人程恐ろしき者は無し總て自分を悪しと思へば是はあらねども誰も彼も自分悪しと思ふ者は無し皆我れ勝ちにして是

を世の人と申ぞよ夫で

天に於ては是をならぬと教へあれど皆人を恨みてなり是は同罪にして是を穴二つと申ぞよ恨みて人を惱まし又我れ惱むにして是を同罪といふ能く心得置け人といふ者は皆惡敷心を持って居る是を我れ無しと思ふから夫で人を恨むなり是を御互ひと知れ我れも時によりては爲さぬ限りも無し是を能々我が胸に尋て總て堪忍をするのである夫で皆無事なり是を皆知りて居れよ是が物の道理の能くわかる人と申ぞよ夫で世に於ては此恨みといふ事は總て婦に多し男には餘り無し是を物の道理のわからぬ者と申ぞよ夫で此病ひに罹りたる時は直ちに

天を拜せ然して心に御詫びを爲せ是が第一にして此心ある者には天が夫れを取りてやるにより是を知れ又是の強よきを腦溢血

ともいふ是は總て同じなり夫て此病ひに罹りたる時は第一腦を鹽湯にて蒸せ又胸を鹽湯にて同じく蒸せ又耳、眼、鼻、是を水にて冷やせ氷は餘りよくは無し又水を飲め夫て一時其熱は去るにして是を速座の療法にして此外は第一心を安靜にして耳の端にて彼是申は悪し夫て落付ば先づよし是は總て急激病であるにより出てからは餘り効は無し夫て平素に人は心懸けて身を粗に爲ぬ様にするなり是は又教へてやる平素に餘り人に恨みを受けぬ様又人の嫌ふ事を爲ぬ様に常に心を持ちて居れ是を人の心懸けと申ぞへ又人として是を好むあり是は總て犬猫の性にして人の本分を知らぬ者にして是を我が大日本國人とは申さぬぞへ

一、此病氣に罹りたる者は總て人の嫌ふ事を爲したる者に多し夫て此病ひに罹るなり是は調べて見れば必ず是にして人の鼻摘み

人なり天罰は是なるぞへ天の御仰せ是也

## 盲腸炎

### 二十七

是は眞の熱つより起り來て食を害すにより此病氣に罹りたら大根をオロシテ其汁を胸と腹に日に三度ぬれ是を三日の間又是を頭全部にもぬれ同じ事に又手足及び總身に酢と白砂糖と少し煮て是を日に三度宛つ廿日の間ぬれ又耳、眼、鼻、口、是を辛らき鹽湯にて蒸す様にして拭け又肛門を鹽湯にて洗へ又男は糞、婦は前へ是を鹽湯にて洗へ是は何れも日に三度廿日の間夫て治す

## 腹膜炎

### 二十八

是は腹全部に熱つを持ちて居るにより腹部全體に白砂糖を湯にて溶きてぬれ是を何れも日に五回二時間置きに爲せ是を三日間又手足總身を鹽湯にて拭け是も日に五回二時間置きに三日間又

頭の眞に酢をぬれ是は日に一度廿日の間又頭を鹽湯にて日に一度十度洗へ夫で治す天授

### 肺炎 ヘイエン 二十九

是は胸に毒ありてなり夫で胸に酢をぬり又胸を辛らき鹽湯にて蒸せ又手足を鹽湯にて拭け又腦を辛らき鹽湯にて蒸せ夫で治す此療法は何れも日に二度廿日間爲すのであるぞよ天授

### 肋膜炎 ロクメンエン 三十

是は臍そと兩脇下に酢と白砂糖と少し煮て是をぬれ又顛ごの廻りにも此酢をぬれ又眼のまわりにも此酢をぬれ又手足にも此酢をぬれ又胸より下腹まで油を一度又白砂糖湯を一度と交代に二時間置にぬれ是は何れも日に三度三日間又胸腹を辛らき鹽湯にて蒸せ是も日に三度三日の間夫で全治す天授

### 骨膜炎 コッペンエン 三十一

是は骨と骨との間にある毒を取らねばならず夫で六ツケ敷是を取るには第一酒を總身にぬりてよし是を日に三度廿日の間又耳と眼を鹽湯にて毎日廿日の間蒸せ又酒を少し宛つ飲め又胸腹及び兩脇腹に酢をぬれ是は日に三度廿日の間又酢を飲め是は毎日盃き一杯宛つ廿日の間又尻と前へ傘を毎日鹽湯にて洗へ是を廿日の間又脊筋に大根をオロシテ其汁るをぬれ是は日に三度三日の間夫で治す天授

### 骨髓炎 コッゾイエン 三十二

是は其痛む所に大の毒あるにより其所に酢一度白砂糖湯一度と二時間置きに交代にぬれ是は兩方共日に三度廿日間又酢を飲め是は毎日盃き一杯宛つ廿日の間又手足及び總身に酒をぬれ是

は晝一度夜る一度是を廿日間又手足及び總身を鹽湯にて洗へ是は毎日廿日の間又口を鹽にて研がけ又尻前、臍、是を鹽湯の中に少し酢を入れて此湯にて毎日兩度洗へ是を廿日の間又頭を此同じ鹽湯にて洗へ是は毎日廿日の間先づ是てよし天授

中耳炎

三十三

是は外耳炎と同じ療法にてよし又是は少し耳の中に毒を持つに より耳の廻りに酢をぬれ是を日に三度三日間又耳の中へ油を差せホンノ少し宛つ日に三度十日の間夫てよし又口を鹽にて研け尻前、臍、を鹽湯にて能く洗へよ

外耳炎

三十四

是は總て冷える者に來る夫て腦を鹽湯にて洗へ是を日に一度三日間又腦を鹽湯にて蒸せ是は日に三度十日の間又其耳の所も同

じく鹽湯にて日に五六回三日間蒸せ又尻を毎日三度三日間鹽湯にて洗へ又胸より下腹まで酢をぬれ是は日に一度廿日の間又酢を飲め是は毎日盃き一杯宛つ廿日の間又胸より下腹まで白砂糖を湯にて溶きて是を日に一度廿日の間ぬれ夫てよし天授

耳下線炎

三十五

是は多く胸より來る夫て胸に酢をぬれ又手足を鹽湯にて拭け又兩耳を鹽湯にて蒸せ又兩耳の下に白砂糖を湯にて溶きてぬれ是を何れも日に兩三度廿日の間夫てよし天

耳垂

三十六

是は耳の中と外とに大の毒あり夫て熱を持つ夫て是を治すには先づ耳を鹽湯にて蒸せ又耳に油をぬれ又耳の中へ少し宛つ酢を差せ又耳に芋の汁るを少し宛つ差せ夫て耳より一層膿が出て毒

取れてよし夫で廿日にして治す天授

## 口内炎

### 三十七

是は此本の中にある外耳炎又中耳炎と同じ療法を爲せば夫でよし又口を毎日又ルキ鹽湯にてウガイを爲せ是は度々爲してよし又酢を毎日盃き一杯宛つ廿日間飲めよ天

## 肥厚性鼻炎

### 三十八

是は鳥渡面白い事がある是は名前としてはおかしくはないが此病ひは來る人によりて違ふ夫何かの臭き人又羣の油きつたる人又極の不性者に來る病ひにして是は一口にいふと不性病又變毒病にして此人は餘り人には好かれず心がねち／＼にして何れ長生は出來ぬ又此人と寝ると夫何かゝらうつる是は大變夫で此病氣の者は朝寢をする御飯をむらに喰べる口を餘りきかず口言を

いふ取る所一つも無し夫で先づ申さば死した方がよし夫で天が作りかへてやる夫でも療法は教へて置く第一朝は六七時に必ず起きよ又胸を鹽湯にて拭け又前尻羣是を鹽湯の中に少し酢を入れて此湯にて毎日廿日間洗へ是を同じ事廿日間宛つ六度爲せ又頭を毎日此同じ鹽湯にて六百日洗へ又胸より下腹まで酢をぬれ是は日に一日廿日の間又十日置きて廿日間と是を十度爲せ又胸より下腹まで大根をオロシテ其汁るをぬれ是は日に一度十日の間又同じ事に十日置きては十度爲せ夫で漸く並人の様に成る是を天が申て置くにより能々心得てよし天授

## 接護線炎

### 三十九

是は寢起する爲に起り來る病ひにして早くいふと凝りにして其凝りが重さなりて熱つを出す夫で一切不自由と成る是を治をす

には第一酒を全身にぬれ是を日に五回十日の間又酒を飲め是はホロリと酔ひかげんに又眼を毎日鹽湯にて拭け又耳是を鹽湯にて蒸せ是を何れも日に一度廿日の間又手足總身を鹽湯にて拭け是は日に三度廿日の間先づ是てよし天授

### 扁桃線炎

#### 四十

是は總ての凝りより來るにより第一肩及び脊に大根をオロシテ其汁るをぬれ又其熱つのある所にもぬれ是は日に三度三日の間又胸と脊に酢をぬれ是は日に一度廿日の間又酢を飲め是は毎日盃き一杯宛つ廿日の間又尻を毎日一度廿日の間鹽湯にて洗へ又頭を鹽湯にて毎日一度廿日の間洗へ又芋を食せ是をオカズトシテ三日間食せ夫てよし天授

### 卵巢炎

#### 四十一

是は尿道より來る夫て下腹全部辛らき鹽湯にて蒸せ日に十回三日の間又下腹全部に酢をぬれ是は日に一度廿日の間又顔全部を鹽湯にて蒸せ是は日に一度廿日の間又耳と眼を辛らき鹽湯にて拭け是は日に三度廿日の間又手足及び總身を鹽湯の中に少し酢を入れて此湯にて拭け是は日に一度廿日の間又前へと肛門を此同じ鹽湯にて毎日兩三度廿日の間洗へ又兩脇下に酢をぬれ是は日に一度廿日の間又胸を鹽湯にて毎日廿日の間拭け夫てよし天

### 睪丸炎

#### 四十二

是は人の毒にして恐ろし是は一家根絶し病にして子は不出來又子々孫々にも傳へるの害病にして人の難事は是より來る夫て此療法は此本の中ちにある痲病又微毒の療法をなせ夫てよし又睪に毎日油をぬれ是を日に一度廿日の間又睪と道具及び尻を毎日

鹽湯の中に少し酢を入れて此湯にて洗へ是も廿日の間夫てよし  
全治法は是であるぞよ天授

## 膀胱炎

### 四十三

是は人の申小便ぶくろの病ひにして是は熱つ多し夫て此熱つは  
最も悪敷毒熱にして是程悪敷毒熱は無し夫て此病ひは治して治  
せず又起り來る是を一切病の大源にして是より恐ろしきは無し  
夫て此病ひに罹りたら第一に酒を少し宛つ飲め又酒を下腹及び  
姪部の所にぬれ是を毎日兩度廿日の間又胸より下腹まで酢をぬ  
れ是は日に一度廿日の間又酢を飲め是は毎日盃き一杯宛つ廿  
日の間又胸に大根をオロシテ其汁るをぬれ是は日に三度三日間  
是を同じ事十日置きては又三日間と十度爲せ又尻を毎日鹽湯に  
て洗へ是を毎日廿日の間又眼を鹽湯にて毎日洗へ又耳を鹽湯に

て拭け又顔面全體を鹽湯にて蒸せ是を毎日廿日の間又鹽と頭に  
付る油と能く煉りまぜて是を頭の眞に日に三度廿日の間ぬれ又  
胸より下腹まで白砂糖を湯にて溶きてぬれ是は日に一度廿日の  
間又手足を毎日鹽湯にて拭け是を廿日の間夫てよし天授

## 尿道炎

### 四十四

是は此本の中ちにある卵巢炎と同じ療法をなせ夫てよし天

## 糖尿病

### 四十五

是は尿道に熱つを持ち夫が爲に小便の出悪し是を糖尿病と今の  
人の申事にして是は便通の悪敷爲に糖を夫に集む又此糖が小便  
に付て出る故夫て渴きてなり是を治すには第一頭を鹽湯にて  
洗ひ又胸、手、足を鹽湯にて拭き又咽喉を水にて冷し又は鹽湯にて  
蒸せ又手の節々を鹽湯にて温め又足の裏らを鹽湯にて洗ひ又食



事としては大豆是を湯に漬けて是を豆腐を作る様につぶして是を甘味噌で煮て是を食すなり夫で糖は出ずして又渴きも止まり熱つも取れてなり夫で三七日にして治す又此一切の療法は三七日の間爲すなり夫でよし是を一番早全治の法にして是より早き療法は無し是を能々心得候事天授

痔

四十六

是は又種類百種と申てもよし此毒は數ありて色々なれど其大極といふ痔病の療法を爲せば夫で一切よし是を一番の重き痔病の療法であるにより其心して爲せ

一、頭を鹽湯にて三日間日に一度宛つ洗ふ事又胸、手、足、を鹽湯にて拭く事是は日に二三回宛つ廿日の間又胸より下腹まで酢をぬれ是は日に一度廿日の間又酢を飲め是は毎日盃き一杯宛つ廿日

の間又脊骨の中程より尻まで日に三度酢をぬれ是も廿日の間又頭の眞に鹽と婦人の頭に付る油と能く煉り混交せて是を日に三度廿日の間ぬれ又尻と前を毎日鹽湯にて洗へ男は辜を能く洗へ是を廿日の間又肛門に油をぬれ是は日に二度廿日の間又油は婦人の頭に付る油でよし又肛門に綿を當て居れ又胸を鹽湯にて度々拭け是でよし又食事は何を食しても良し是を嫌ふ勿れ夫で全治す又はを一回にて治せざる重き者は十日置きに此通りを三回爲せ夫で如何なる重き痔病も全治するぞよ天授の命は是也

痔 瘻

四十七

是は又面白ひ痔が瘻と申て高き所に登るといふ夫で於尻、是は誰がいふたのか少し妙である其譯けは痔が功勞經て來たといふ事ならん是は痔深んと申たらよかるふに古しへはコンナ病ひは無

いから天も其病名を教へては置かざりし是は多分人の付し病名にして少し其意を異にす若し論學者があれば其理を御説明被下一、痔といふものは親の譲りし毒にして此毒は脊骨の中程にありて動ごくものでは無し是を痔といふ夫で酢といふ物は總ての毒を取る夫で毒掃は酢なり此外に無し又酢は天の譲りにして是を梅の酢と思召是を天壤無窮といふ此酢ありて世あり此酢無くば世は無し是を諸賢醫御承知被下よ是は今の世には出ずべき書にはあらざれども此書を書し源海戸田爲治郎は世の事に腐心して常に此事而已是を常とす夫で日々來る多くの病者を片端しより治をしつゝあり又此大日本人中今日までに百九十八萬餘といふ病者を皆治をして救ひやりしなり最も是は天の教へによりて爲すのであるから夫で皆治をしてなり源海其

者に何んの心得あるにあらず是は人の事に一心不亂夫であるから天も一切を教へなされてなり是を天と地の取次者にして今の世に於ては是一人にして又弟子のうちにも少しは

天の御詔を受けて居る者もあれど是は未だ修行足らずして居るにより切れくゝに受けてなり是は何れ成るなれど今の所は是なり夫で痔といふものは元より人の毒にして瘡毒微毒の古るくなりしものにして是は一番重し毒病としては是が病王にして此外重き病ひは數あれど是は體の備りより來て居るにして病氣といふより其體素薄弱にして大體に於て悪し是を皆様御承知あつてよし又病氣として見るべきものは二三十種より無し其起りは何れも同じにして其元根を斷ずれば夫で治す夫で此書中療法は皆

同じといふてもよし夫て必ず治す是は根治法であるにより夫て治してなり若し異論者あらば何時にても御相手申にして是を天は申て置く夫て痔の病ひは脊にありてなり此元の毒を取去れば切るに不及切りても又出る一生切りても其根は依然たり是を御承知あれよ夫て此病者は日に三度宛つ廿日の間脊の中程に五寸經丸程酢をぬるなり又脊骨の上を尻の所まで酢を同じくぬるなり又服用としては酢を飲め是は毎日盃き一杯宛つ廿日間又手足總身に酒をぬるなり是は日に三度廿日の間又口を鹽にて研がけ又尻前、臍を鹽湯の中に酢を入れて此湯にて毎日洗ふてよし又頭に酢をぬりて三時間の後ち鹽湯にて洗へ是を毎日廿日の間夫て治す又重きは再び出る又同じ療法をなせ夫て根治と成る是を今天即ち

伊勢大廟が教へ置くにより是を知りて皆健全と成れよ是が天の親の御眞璽であるぞよ天授是也

## 心臟病

### 四十八

是は總て眞の疲れより來る夫て此病氣の者は第一に辛らき物を常に食すなり即ち唐辛らし、山葵、生薑、辛らしの類又眼を鹽湯にて蒸せ又手足を鹽湯にて毎日拭け又手と足を辛らし湯にて拭け又頭の眞に鹽と頭に付る油とよく煉りまぜて是を日に三度宛つぬれ又胸より下腹まで酢をぬれ是は日に一度又胸より下腹まで白砂糖を湯にて溶きてぬれ是は酢をぬりたら夫より三時間の後ちにぬれ是も日に一度又耳眼鼻口共に少し辛き鹽湯にて蒸せ又肛門を毎日鹽湯にて洗へ又胸に大根をオロシテ其汁るをぬれ是は日に三度三日間又是を脊にもぬれ同じく三日間又食事を少し控

腎臟病

四十九

へめに爲せ夫てよし此療法は何れも廿日の間夫て全治す天授  
是は多く寝冷へより来る又婦毒によりて腰の冷へる者に起る夫  
此病氣に罹りたら第一に腰を鹽湯にて温めよ又腰及び下腹に胡  
麻又種油をぬれ又下腹に白砂糖を湯にて溶きて是をぬれ又頭の  
眞に鹽と頭に付る油と能く煉りて是を日に三度ぬれ又胸腹を鹽  
湯にて拭け又手足も鹽湯にて拭け又脊の中程に酢をぬれ又兩耳  
の下に油をぬれ先づ是でよし又此療法は何れも日に一度廿日の  
間是をなせ全治法は是なり天授

肝臟病

五十

是は何れも悪熱つにして是は多く兩脇下にある毒より来る又尿  
道の悪敷所より来るにして是は冷へよりにして總て體を温めれ

脊髓病

五十一

ば自然に治す又此療法は第一に腰を鹽湯にて温め又胸を鹽湯に  
て拭き又乳と兩脇下を鹽湯にて能く洗ひ又兩脇下に酢をぬれ是  
は日に二度宛つ三時間置きに又眼と耳を鹽湯にて蒸せ又脊を鹽  
湯にて拭け又手足を鹽湯にて度々拭くなり又大便小便毎に鹽湯  
にて其出口を拭くなり又服用としては大豆をホウロクにて眞黒  
に煎りて是を細末となし是に砂糖蜜を加へて是を日に三度指の  
頭程宛つ舐めるなり是は大豆一合又白砂糖半斤を蜜に煮詰めて  
よし是を一週りの量として三週り爲せば夫てよし又他の療法は  
總て廿日間なすべし是も同じ事廿日間を三度なせば如何なる重  
患者も必ず治す又頭の眞に鹽と頭に付る油と能く煉り混交せて  
是を日に三度廿日の間ぬれ是でよし天授

是は人として能く出る病ひなり是は味噌と鹽と混交せて是をスリ鉢にて能く搗りまぜて是に少し酢を加へてベタ／＼にして是を白紙に延ばして脊一面に張付よ是を日に三回三日間又頭の眞に鹽と頭に付る油と能くねりまぜて是を日に三回廿日間ぬれ又足と手を毎日鹽湯にて拭け是も廿日間又胸より下腹まで酢をぬれ是は日に一回廿日間又酢を飲め是は毎日盃き一杯宛つ廿日の間又肛門を毎日鹽湯にて廿日の間洗へ夫でよし天授

條蟲サナダムシ箴蟲オサダムシ

五十一

是は心と心に依りて出来るもの又は人の申生煮への肉類を食すと此蟲が生ずるにより是を氣を付よ又はは取りて取れず又其増事甚し是を知れ又はは少し冷へると尙増すにより成べく體を温めてよし夫で教へてやる是は人の氣に添ぬ物を食して夫が體

に残りて居るにより其食せし物の氣を取りてしまへば夫でよし是は油より出るにして其油が生まであるにより夫で蟲が湧くのである是を箴蟲といふ條蟲とは誤りにして是を改めよ又箴の如くにして直ぐ切れてなり是は一切れ毎に口ありて直ぐ又大きくなるものにして是は其種を絶滅爲すにあり是は米と麥と粉にして是を眞黒に煎りて是を酢にて煉り是を白紙に延ばして胸、腰、腹に張るなり又酒を頭の眞にぬるなり是は何れも日に一度廿日の間又胸に竹の油を取りて是を付るなり又此竹の油の取方は青竹を水にて能く洗ひ是を火にかけて其出る油を白紙にて拭き取り其拭き取りし紙を其儘胸に張付て置くなり夫で其毒取れるなり又肛門を酢にて洗へ又胸を酢にて拭け是を何れも廿日の間又胸より下腹まで胡麻油をぬれ是は日に三度三日の間又婦は前へ男

は隼、是に酢をぬれ是は日に三度三日の間夫で根治と成る安全法  
は是なり又鐵の氣を飲みてもよし是は少し體に毒と成により前  
記の方がよひぞよ天授

蛔蟲

五十三

是は食事の疎漏より來るにして小兒に餘り色々の物を喰わせる  
と此蟲が湧く是は又眞に毒あるからの事にして是は其母の毒な  
り夫で是が湧きたら胸より腹まで酢をぬりてやれ又耳と眼の上  
下に酢をぬれ又頤ごの下にも酢をぬれ又兩脇下にも酢をぬれ又  
玉子を眞つ黒に其中の實丈けを焼き是を煎んじて其汁るを飲ま  
せろ又是に少し白砂糖をまぜてもよし是を何れも日に一度廿日  
の間夫でよし又乳を飲む子でありたら乳首に少し酢を付て飲ま  
せろ夫でよし天授

十一支腸蟲

五十四

是は人と人との心より起る是は心に悪敷を思ふと悪熱つが出る  
夫で是と成る夫で人といふ者は年中笑ふて居るを良しとす又此  
病ひに罹りたら酢を飲め是は毎日盃き一杯宛つ廿日の間又白  
砂糖を能く煮詰めて是を舐めよ又頤ごの下に酢をぬれ是は日に  
一度廿日の間又煮詰めた砂糖は日に五回廿日の間舐めよ又分量  
は多くてもよし又兩脇腹に酢をぬれ是は日に三度十日の間又婦  
は前へ男は隼、是を鹽湯の中に少し酢を入れて此湯にて日に三度  
廿日の間洗へ又頭の眞に酢をぬれ是は日に三度廿日の間又玉子  
の皮を百個ホウロクの上で眞黒に焼き是を極く細末にして是を  
白砂糖を煮詰めて其蜜とねりまぜて是を毎日三度指の頭程宛つ  
舐めよ夫で全部よし是を天が教へ置くにより難有と知れよ天授

## 脚氣

## 五十五

是は尿毒便毒にして是は少し六ツケ敷夫で此病ひに罹りたら第一に鹽と味噌と能くすりませせて是に唐辛らしを入れ又辛らしを入れ又酢を少し加へて是を能く搗りませせて是を毎日多量に舐めよ又胸より下腹まで酢をぬれ是は日に一度又酢を飲め是は毎日盃き一杯宛つ又胸及び下腹に大根をオロシテ其汁るを日に三度ぬれ又手足にも同じく此汁るをぬれ又兩耳下に油をぬれ是は日に一度又手足を毎日鹽湯にて拭け又體だ全體を鹽湯にて拭け又兩足に油をぬれ是は日に三度又胸より下腹まで白砂糖を湯にて溶きてぬれ是は前きに酢をぬりたら三時間の後ちにぬれ是てよし總て此療法は日に一度宛つ廿日の間又重きは是を三週り爲せ夫で根治全治なり又食事は何んでも自分の好む物を食せ空腹

にしてはならぬぞよ總て此病ひに罹る者は氣不性であるにより是を改め何んでも快活に働け夫でないと又此病ひが出て困るぞよ不性は人の屑是を知れよ又人は多く不性を好む是が病人と成元にして是より悪敷は無し能く心得置け天授

## 眼病

## 五十六

是は多く眞の疲れより來る又毒眼もあり夫で此療法は第一眼を鹽湯にて洗へ又酢を飲め是は毎日盃き一杯宛つ廿日の間又頭の眞に酢一度白砂糖を湯にて溶き是を一度と交代に日に三度宛つ廿日間ぬれ又胸に大根をオロシテ此汁るをぬれ是は日に三度三日の間又常に辛らき物を食せ是は辛らし、唐辛らし、山葵、生薑の類ひを又眼には辛らき物を害といふ是は其譯けを知らぬ者の申事にして是は眞の疲れし者には必ず辛らき物を食すを良とす是

は又何故である人の眞は火にして極く辛らき物其眞が疲れし爲に眼力を失ひてなり夫で辛らき物を食す時は其眞の力らとなりて忽ちにして効を奏して眼球をさわやかにす又段々と眼力を増し來りて遂ひに壯眼と成るにより是を皆知れよ夫で香氣ある物は眼にしむ是は眼力が弱いからの事にして強き眼にはしみず是を知れ又辛らき物は腦を良くす夫でよし是を心得て此療法を爲せ天授

眼病底翳

五十七

是は眞の疲れにして眼に來るの力ら無し夫で眼球は殻らと成て居る夫で是を治すには第一辛らき物を食して眞の力らを付るの外は無し夫で毎日芋、蓮根、慈姑、無花果、又筍こを食せ又辛らき物として山葵、生薑、辛らし、唐辛らしの類又頭を年中鹽湯にて洗へ

又眼を鹽湯にて蒸せ又胸に酢をぬれ是は日に一度宛つ全治爲すまで又時々眼を水にて洗へ夫でよし是を天の親が教へて置くにより此通りに致せよ天授

トラホウム

五十八

是は逆上なり又毒より來るもなり是は第一鹽湯にて眼を蒸すなり又鹽を口にてかみて是を臉に何度となくぬるなり夫で三日にして治す又毒もあるにより頭の眞に酢をぬりて三時間の後ち頭を鹽湯にて洗へ是を毎日一度宛つ十日間爲せ夫でよし天授

亂視眼

五十九

是は腦悪るし夫でいかぬ是を治すには第一男女の交りを禁ぜよ又此卷中にある腦病の療法を爲せ又腹部に白砂糖湯と酢と交代に二時間置きにぬれ是を日に三度宛つ廿日の間又眼を鹽湯に



て蒸せ又胸に大根をオロシテ其汁るをぬれ是を日に三度十日の間又芋を食せ是は眼の元であるにより多分に食せ又色情を治すまで必ず慎め夫でよし天授

## 近眼

## 六十

是は人の性といふてもよし又眼を樂くさして近く爲すのもある又早くより眼鏡をかけて近くするのもある夫で眼といふものは精なるものは是を人の力らといふ其眞弱ければ眼力も又弱し夫で可成眼を使へ夫で働くなり是を休む様にすると段々弱くなりて後ちには盲目に等とし是を知れ夫で茶を飲め其後とて必ず鹽湯を又直ぐに飲め夫で茶の毒は消すにより夫でよし又亂視といふ眼あり是は近眼の裏らにして是は又心臓の疲れより來る夫で此本の中ちにある亂視眼の療法を爲せ夫でよし又此近眼は玉子と

昆布と煮て是を食せ又玉子の皮を粉にして是を酒に十日漬け置て其酒丈けを飲め又是は酒五合玉子の皮百個の分量にしてよし又酢と玉子の皮と此同じ分量に拵へて其酢を毎日盃きに一杯宛つ飲め又頭の眞に酢をぬりて三時間の後ち鹽湯にて洗へ又玉子を酢で煮て食せ夫で段々と良くなりて此療法を三週りを爲せば夫で眼は強くなりて樂く爲すにより是を知りて此療法を爲せ又是は天の教へにして別法なり其難有さを知れよ能く心得置け天

## 爛眼

## 六十一

是は其者の毒にして肺部に多く毒あり夫で是なり又是は微毒瘡毒より來るもあり又丹毒尿毒より來るもあり夫で此眼の者は此本の中にある微毒瘡毒の療法を爲せ夫でよし是が第一の療法である夫で一切の毒取れてよし皆是を知れよ又眼を鹽湯の中に少

し酢を入れて此湯で毎日洗へ夫で必ず治すぞよ天授

盲目少治法

六十二

是は何れも眞の疲れにして又毒眼もある夫で此者は多く人より悪敷心を持ちて居る又因縁因果よりにして是は總て天に棄られし者にして是を天刑症と知れ夫で天の御許しを受ければ眼は見へるなり既にして眼の眞を失ひし者は別つ眼の眞ある者は光りを得て樂くを爲すにより第一天の親様と眞の眞の心にてすがり頼め又此療法を爲せ眼を毎日鹽湯にて蒸せ又鹽湯で洗へ又胸を鹽湯にて拭け又手足を鹽湯にて拭け又足の裏らを鹽湯にて洗へ先づ是でよし是は何れも良くなるまで夫で早きは三日にして治す重きは六週間にして治す今是を天の親が教へ候により此通りを守りて爲せ夫でよし是は此本を發行するに當りて

天より特に御教へあり是を難有と思へよ此外に酢を毎日盃き一杯宛つ治すまで飲め是は一切の毒掃除なり能く心得置け天授

喘息

六十三

是は毒體の者にあり夫で此者は多く心がわるし是を自らなをせ又頭を鹽湯にて洗へ又胸を鹽湯の中に少し酢を入れて此湯にて拭け毎日兩三度治すまで又酢を飲め是は毎日盃き一杯宛つ廿日の間又白瓜、胡瓜のある時には此汁るを取りて是に鹽と白砂糖を入れて飲め又推茸を十個是を黒焼きと爲し是に水一升五合と是を三四合となるまで能く煮詰めて是に白砂糖を入れて毎日盃き一杯宛つ飲み盡せ夫で治す又頭の眞に辛らしを出して是を白紙に延ばして張付よ是は日に一度三日の間又胸を度々鹽湯にて拭けよ夫でよいぞよ天授

# 丹毒

## 六十四

是は婦人より受けし冷えの毒より來る又便毒より來る夫て此病  
 ひに罹りたら玉子の皮を百個と水二升是を五合と成るまで煮詰  
 めて是に少し白砂糖を入れて此汁を三日間に飲め又是を  
 十日置きては一度と是を同じ事十回爲せ又胸、手、足、を鹽湯にて日  
 に三回宛つ全治まで拭け又足と手を鹽湯にて時々洗へ又兩眼を  
 毎日鹽湯にて洗へ是も全治まで又玉子の皮を黒燒にして是を細  
 末となし是に白砂糖を煮詰めて此蜜つと能くねりませて是を親  
 指の頭程宛つ毎日三度全治まで舐めるなり是は長く舐る程よし  
 又是を婦毒便毒の掃除法であるにより皆心得置け又シヨウカチ、  
 コシケ、の婦人は必ず是をなせ是で丹毒病は全治す天授

# 痰咳

## 六十五

是は毒と毒との衝突にして是を右と左に別けてやれば夫てよし  
 又此毒は多くは微毒瘡毒にして又尿毒丹毒もあり是は皆其親よ  
 りのゆづりにして是は誰れでもある夫て此病ひの者は先づ微毒  
 瘡毒の療法を爲して後ち辛らしを眞黒に炒りて是を煎んじて飲  
 め其量は辛らし一合に水二升是を五合に煎んじ詰めて其中に砂  
 糖を入れて飲め夫てよし又極く重き症は砂糖を鍋にて眞黒々々  
 に燒き是をけづり取りて是を布袋に入れて是を煎んじて飲め又  
 此量としては砂糖五十目水一升是を二合に煎んじ詰るなり是を  
 三日間に飲め夫てよし天授

# 膽石

## 六十六

是は多く冷え性の者にあり夫て眞を温める事を爲してよし第一  
 辛らし、山葵、生薑、又唐辛らしの類を常に常食の様にして食すなり

夫て眞は強壯となりて自然に治す是は大體其根治法にして此外は鹽湯にて胸を蒸すなり又辛らし湯を以て腰湯を爲せ是を日に一度三日の間又胸をスカス爲に大根をオロシテ其汁るをぬれ是を日に一度三日の間又手足を日に三度鹽湯にて拭け又總身を毎日の様に鹽湯にて拭け夫てよし天授

### 黄疸症チクダンシヨウ

### 六十七

是は眞の疲れなり夫て全身に油をぬれ又太と股に酒をぬれ是を何れも日に三回十日間又胸より下腹まで酢をぬれ是は日に一度十日の間又眞に毒あるにより酒と油を交代に胸より下腹にぬれ是は日に三度三日間又足の裏らを鹽湯にて洗へ又胸と腹の境ひ水落ちと稱する所に酢をぬれ是は日に三度十日間又便通の出口を鹽湯にて洗へ是は毎日兩三度治すまで又顔面全部を鹽湯にて

蒸せ是を日に一度十日の間夫てよし天授

### 黴毒瘡毒バイドクソウドク

### 六十八

是は何れも人の毒にして是は遺傳病にして此毒は皆持ちて居る夫てひどく出て難儀をするか未だ不出して居るかの事にして是は五濁惡世中に出來し病氣なり極くの古しへは病氣といふものは無かりしなり夫て此瘡毒黴毒は混血兒の故にして此混血と申のは世にていふ善惡なれど此惡性にして百八十三種ありて是は森羅萬象種にして是が百八十三種ある夫て今は五濁の末にして今は其終り時夫て今の人は皆混血兒にして入混交りなり此外善種一つありて是は梅性なり他は李、又桃性なり是を惡性といふ此惡性は灰毒多し夫て害ありてなり是を人の毒といふ是を皆知るがよし夫て梅は善性の者の糞又小便の氣を吸ひて榮ゆ又李、桃は

悪性の糞小便の氣を吸ひて成る是も知りて置くなり又悪は若年者善は老人といふ譯けにして是は世の理なり世にて永く晒されし者は灰く悪は無し悪は未だ若くして其晒し方足らず夫で灰くあるにより悪を爲す又悪灰は毒にして是は害あり夫で今大正の御世に於て悪多し夫で世に害爲す者多し是を皆知れよ夫が爲又病者多し是は灰の故にして是非は無し夫で此病ひに罹りたる者は第一酢を飲め是は毒取法にして此外毒を取る物は無し先づ是を日々盃きに一杯宛つ七十日飲め又此酢にて體だ全體を拭け是も日に一度七十日又眼、口、鼻、を鹽湯にて拭け又頭に酢をぬりて三時間の後ち鹽湯にて洗へ又男は辜と尻又兩脇下を鹽湯の中に少し酢を入れて此湯にて洗へ是は日に一度七十日の間又婦は前を洗へ他は皆男と同じに洗へ先づ是でよし又極く重き者は極く古

るき壁土を取りて是を極細末と爲し其中の塵りを取りて是を升目にして二合是を少し宛つ酢にて飲め夫で全治す是は世に無き療法にして天の親の御教へなり皆喜ろこべよ天授

## 痲 病

### 六十九

是は他より受けしもあり又親より受けて居る毒より出るもあり是は總て微毒にして微毒とは人の毒にして此人の毒と申のは何んである人といふ者は百八十三種ありて其性を異にす是を又別けて申と梅性、李性、桃性、の三種と成る（大別は略す）夫で男女交合を爲す其血が戦ふ夫が爲に腐敗して一つの微菌を生ず是が又人の體より出しものより生じたる微菌であるにより直ぐに人の體に喰ひ込みてなり是が微毒にして是を世にて瘡毒ともいふ是は人の性と性との氣の違ひより出るなり是を命ち取りといふ是

は子々孫々に譲るの毒にして多く人の病ひは是が元にして是を人は知らずドウシテ此様な病氣が出たなぞと申て居る皆其體に持ちて居るから夫て出るのである種の無き物は芽は不出皆是を  
 知れ夫て癩病即ちカツタイ坊なり是は皆此惡敷血の故よりにして其血統に無くとも出る事あり是は各人種の入り混交り血より出来てなり是を人は知らず實に氣の毒と申の外は無し是を鳥渡申て置く夫て痲病の療法は第一身體全部を鹽湯にて洗ひ又は鹽湯に入りて體を清潔に爲すなり又酢を飲め是は毎日盃き一杯宛つ先づ廿日間又總身に酢をぬれ是は日に一度廿日間又畢と道具に胡麻油をぬれ是を日に一度廿日の間先づ是てよし又此外胸より下腹まで酢をぬれ是も日に一度廿日間又頭全體にも酢をぬりて三時間の後ち鹽湯にて洗へ是は一日置きに十度洗へ是は曾

て無き療法にして是が天の教へなり能く心得てよし皆是を見て喜ろこべよ是て其毒取れて安神なり是を世の爲め國の爲め國家安穩は是なり國は男によりて建つ其男が皆丈夫なれば夫てよし

### 卵巢病ラシツカシヨウ

### 七十

是は多く爛れより來る是は男女交合によりてなり是を治をす療法は第一水にて前へを日に三度十日間洗へ又鹽湯にて洗ふてもよし是は水と鹽湯にて反對の様なれど是は水に素あり此素は火にして體を温む又鹽湯は邪氣を取る夫てよし又是を水にて洗ふ時は其爛れたる所を癒す夫てよし又鹽湯は其皮を張るにより夫てよし又是を此病氣にとりては至極の療法にして是より良き療法は無し又咽喉を水にて拭け又前へを度々鹽湯にて洗へ又胸と下腹を鹽湯にて蒸せ是を日に一度廿日間又時々前を鹽湯の中に

酢を少し入れて此湯にて洗へ先づ是で治す天授  
**尿道病一切** 七十一

是は腰の冷えより起るにより腰を鹽湯にて蒸せ又辛らき鹽湯にて腰湯を爲せ是を日に一度廿日の間又頭を鹽湯にて洗へ是を日に一度十日の間又手足胸を鹽湯にて拭け是は毎日廿日の間又酢を飲め是は毎日盃き一杯宛つ廿日の間又頭の眞に鹽と婦人の頭に付る油と能くねりまぜて是を日に三度廿日の間ぬれ又尻を毎日鹽湯にて洗へ是も廿日の間夫てよし天授

**神經衰弱** 七十一

是は多く我が儘より來る夫て氣儘氣隨を取れ是が第一なり又多く心配すると是と成る是は氣が沈ずむからの事にして我れより氣を引立よ夫てよし又此療法は少し宛つ酒を飲め食をひかへ目

に爲せ又頭を年中水にて洗へ又胸を水にて拭け又足腰に酒をぬれ又水と鹽とまぜて是を體にぬれ是を日に三度三日間又手足を鹽湯にて洗へ又胸より下腹まで酢をぬれ又肛門に油をぬれ夫てよし是を總て良くなるまで爲せ夫て廿日間にして治す天授

**座骨神經痛** 七十三

是は總ての毒によりて血の通ひ悪し夫て總てに不自由と成又痛みを生ず夫て此療法は頭を鹽湯の中に少し酢を入れて此湯にて毎日洗へ又此同じ湯にて總身全部を拭け是は毎日廿日の間又胸より下腹まで酢をぬれ是は日に一度廿日の間又酢を飲め是は毎日盃き一杯宛つ廿日の間又前尻、臍、を鹽湯の中に少し酢を入れて此湯にて洗へ是も毎日廿日の間夫てよし又天の親様と一心にすがる事を忘するなよ天璽

## 顔面神經

## 七十四

是は兩脇の下に毒ありてなり夫で酢を飲め是は毎日盃き一杯宛つ廿日間又胸より下腹まで酢をぬれ是は日に一度廿日の間又兩脇下及び乳の下にも是と同じ事に酢をぬれ夫でよし又顚ごの下にも同じ事に酢をぬれ夫で大安神是を知れよ天授

## 産前産後

## 七十五

是は妊婦の心得方にして是を守りて健兒を産め先づ産前には夫妻の交合を可成慎め然して心を平に持て又心を勞すな又泣く、悲嘆む、怒る、是を絶對に爲すな又此時に必ず夫に逆ふな夫又氣が荒し是は子の出來た時に限る又口を鹽にて研がけ又前と尻を鹽湯にて毎日何度となく洗へ又胸を鹽湯にて毎日拭け又愈々御産の時には鹽湯にて出口を極く清潔に洗へ然して御産を爲せ又此時

## 婦人病一切

## 七十六

に鹽湯を必ず飲め夫で力ら強し又分娩爲したら又鹽湯を飲め夫で體は調ふ又粥ゆを七日間は必ず食せ又前へを鹽湯にて何度となく洗へ又胸及び總身全體を鹽湯にて拭け又乳を極く辛らき鹽湯にて蒸せ是を三日間又三週間の後ち鹽湯に入浴を爲せ夫でよし又生れし子を毎日鹽湯にて洗ふてやれ是は度々爲すを良とす又産婦は鹽湯を飲むを良とす又赤兒は必ず鹽湯にて初ぶ湯を爲せよ皆是を守りて爲せよ天の御教へ

是は數ありて其數知れずと申てもよし第一婦といふ者は毒體にして此毒を皆男が受けて病む夫で婦人は大體に於て冷性にして是が陰これを世の者の泣く種にして此婦人無くば男は皆健全にして病む事としては無し又百害何れも此婦より起る是が世の障害



にして何れの男も皆此婦人にしてやられてなり是を世の人は知る筈である第一今の世にて世の騒ぎといふ是皆婦人より來て居るにして是を能く了して婦の教育を嚴にしては如何にと天は思ふ是を嚴に爲さざれば世の障害は増々にして迎も制し切れるものでは無し又男にして皆此婦に心を奪ばわれてなり是が世の腐敗れにして是非はあらねども是を改善して行くには先づ世の大體より改めねばならず是を皆御知りあつてよし此大體を改むる事は第一心なり此心が人等しき者とならねば迎もの事にして是を人等しき者と爲すには政事にして是が嚴んならざれば改まらず是を少しは御氣を付あつてよし又家庭が大事なり此家庭を如何にす是は其親の心が又出來て居らねば何んにもならず是が今の人にして少くなくは無し夫で増々腐敗す何れ天が是を親子共

に改むるなれど其前に此書に示して置く是が婦人病を増すの元であるにより皆御心得あれよ夫で婦人病の療法は左に示して置第一花柳病といふ是は微毒瘡毒にして是が大體なり是より皆世の者が悩やむなり夫で微毒瘡毒といふ是を治するには酢を以て取るの外は無し夫で微毒は瘡毒なり是の療法は頭を鹽湯の中に少量酢を入れて此湯にて一回洗ふては三日置きに又一回と十回洗ふべし又胸より下腹まで酢をぬるなり是は日に一度廿日の間ぬる事又手足を毎日鹽湯にて洗ひ又拭くべし是も廿日間又脊全體にも酢をぬるなり是を毎日一回廿日の間ぬるなり又眼を鹽湯にて洗ふべし是も毎日廿日の間又口を鹽にて研がけ是は永く爲す程良し又婦の前と尻を毎日鹽湯の中に少量酢を入れて此湯にて洗ふべし是も廿日の間又頭の眞に鹽と頭に付る油と能くませ

て是を日に三度廿日の間ぬるなり先づ是でよし○白帶下○白血  
 ○赤血○シヨウカチ○此病氣の者は前へを毎日鹽湯の中に少量  
 酢を入れて此湯にて毎日一回廿日の間洗へ又胸より下腹まで酢  
 をぬれ是は日に一回廿日の間又脊にも此通りにぬれ又頭を鹽湯  
 の中に少量酢を入れて此湯にて毎日一回廿日の間洗へ又口を鹽  
 にて研がけ是はなるべく一生爲せ又前への中へ(生薑)是を細末に  
 極くく切りきざみて是に少量鹽を加へて是を極く引の強よき  
 極くやわらかな白紙に丁度よき程に包みて是を晝夜入て置け是  
 を廿日の間但し毎日取替へるなり夫でよし○子宮病○是は男の  
 毒より來るもあり又我れの毒より出るもあり夫で前に示す所の  
 微毒及び瘡毒の療法を爲せ夫でよし又其外に男女交合を慎め是  
 でよし夫で三四週間にして治す○子宮癌○是は子宮に毒を持ち

て夫より肉腐敗れてなり夫で此病に罹りたる者は第一前に示す  
 所の微毒又瘡毒の療法を爲せ又蛸を一疋二百日程の物を買ひて  
 是を水二升に鹽少し入れて能く煮て此汁にて毎日前へを洗へ  
 夫で早く其毒が取れて元の通りに治すにより是を知りてよし又  
 頭の眞に(辛らし)を日に一度是を三度ぬれ又口を毎日鹽にて研が  
 けよ是で心配は無し必ず治す是を今天の親が教へて置くにより  
 是を守りて早く安全體と成れ天授

## 血チの道イチ

### 七十七

是は婦人の病ひにして是は心の晴れざる所より顔青くなりて日  
 々ブラ／＼して居る是は心配事の多ふかりし後と又は我が儘の  
 多き者が我れの意の如くならざる時に此病ひといふ是は如何爲  
 しても我れより直す心が肝要にして是をヒステリー病と今は申

夫で此者の療法は第一酒を少量與へてよし又酒の飲めざる者には甘酒を毎日茶碗に二杯宛つ十日間飲ましてよし又極く重き者には焼酎を全身に毎日ぬりてやれ是を治すまで夫で十日にして全治す天授

### 月經痛<sup>グツクイック</sup>

### 七十八

是は人の性にして取りて取れず是を腐骨症といふ是は體の眞に毒ありて其道ちを塞さぐにより夫で其熱血の度より痛みを生ず夫で此性の者は多く勝氣にして神經高し是を心といふ此心が平らなる時には此痛みは無し夫で皆我れより作ると申てよし夫で人は心を平らに持つを良とす又是は眞に毒ありて其毒が沸くにより夫で心を平らに持つ事が出來ず日々心が燃へてなり是を惜き人といふ人としては負けず何も彼も出來る是を力らに餘ると

いふ夫で身にこたへてなり夫で多く子は出來ずして一生を氣をもみて終るにして是を損んの者といふ夫で此者は人にすかれ又重寶がられてなり是が身の備りにして是を一生の徳にして損なり又是は早く心を轉じて日々に心を柔わらかに持てば夫でよし是を天が教へて置くにより是を守り候て早く樂くな身と成れ又此痛む時に當りては腹部を鹽湯にて蒸せ又頭の眞に白砂糖をぬれ又胸を鹽湯にて拭け又尻と前へを鹽湯の中に少し酢を入れて此湯にて洗へ又酢と玉子と煮て食せ夫でよし是を總て十日間爲せ夫で後ちの憂ひを除く天授

### 乳房病<sup>チブツチ</sup>

### 七十九

是は其者の氣心より來る夫で是は總ての食にありて小兒に乳を與へるの時代に多し夫で此病名はいくつもあるが是は即ち人の

附し名であるにより其病名の何んたるを不問此療法を爲せば夫  
てよし一乳のはれて痛む時は總て熱つであるにより其熱つを取  
れば夫てよし第一乳を鹽湯にて蒸せ是を十回但し痛みの去るま  
で然して酢と白砂糖と少し煮て是を胸一面にぬれ是を日に三度  
夜に三度は是を三日間又其者の心得としては氣をやわらかに持ち  
て居る事は是で全治す天授

乳房痛

八十

是は毒が乳にまじりて出るにより夫て乳首がはれて痛むなり又  
乳兒には是が大の毒であるにより其乳房を鹽湯にて蒸すなり又  
其所に白砂糖を湯にて溶きてぬるなり是を日に五六回夫て三日  
も爲せばよし天授

月經不順

八十一

是は其人の氣心に依りてなり夫て此時には薩摩芋の皮をホウロ  
クの上にて眞黒に黒焼きにして是を煎んじて其汁を飲むなり  
其量は薩摩芋の皮五十目水五合是を二合に煎んじ詰て是を三日  
間に飲むなり又玉子の皮を五十個是を又同じ事に黒焼にして是  
を極々細末にして是を又白砂糖五十目とまぜて水五合を加へて  
是を蜜になるまで煮詰めて是を指の頭程宛つ日に三度舐めるな  
り是を全部舐め盡す事夫てよし天授

腋臭

八十二

是は其者に大の毒あり夫て臭さし是は又人にもうつる是を取る  
の療法は第一男は尻と臍婦は尻と前へ是を鹽湯の中に少し酢を  
入れて此湯にて毎日取れるまで洗へ又胸より下腹まで酢をぬれ  
是は毎日一度宛つ取れるまで又酢を飲め是は毎日盃き一杯宛

つ取れるまで又頭の眞に酢をぬれ是は日に三度取れるまで又頭を鹽湯の中に少し酢を入れて此湯にて度々洗へ又口を鹽にて毎日研がけ又頭に糠味噌をぬり付て三時間の後鹽湯にて洗へ是を三日目毎に取れるまで爲せ又婦は前への所に酢をぬれ是は日に三度宛つ取れるまで又男は傘と道具に同じく酢をぬれ又男女共に兩脇下及び兩脇腹に同じく酢をぬれ是又取れるまで夫でよし夫で輕き人は三日にして治す又重き者は六週間にして治すぞへ能く御心得あつてよし又是は眞の毒であるにより氣候によりて又臭き時には前記の通りを操返へして爲せば夫で治す天授

### 婦人の前又口臭者 八十三

是は前記腋臭と同じ療法を爲せ夫でよし又是を棄置くなよ此者は必ず體に毒あるにより出來し子供に其毒をゆづりてなり夫で

親子共後ち難儀と成るにより是を知りて皆早く此療法を爲せよ夫で後ち困らずして樂くなるぞよ男は妻に是を嚴敷申付よ是を皆怠るなよ一生の苦樂は是であるにより能々心得てよし天璽

### 常習便秘症

### 八十四

是は多く其人の心にして心のいそがしき人は總て便通悪し又便通は毎日一度是を健康體の人にして是より多くも又少くなくも悪し成べく毎日一度あるを良とす夫で此時に當りては先づ男子としては酒を少し飲むもよし又夏なれば西瓜を食すもよし又耳眼口鼻を鹽湯にて蒸すもよし又下腹を鹽湯にて温めるもよし又兩脇腹を鹽湯にて拭くもよし又額ひに唾きを付るもよし又頤ごを鹽湯で濕めすもよし又足及び足の裏らを鹽湯にて拭くもよし又寝る時に酒と玉子を飲みて寝るもよし是を一切教へ置くによ

り能く心得て置け又婦人としては多く我儘勝手を爲すにより夫  
 て是は最も多し夫で其時の心得は第一頭を水にて洗へ又胸を水  
 にて拭け又手足を水又は鹽湯にて拭け又足全體を鹽湯にて蒸せ  
 又胸より下腹まで酢をぬれ是は日に一度十日間又尻と前を鹽湯  
 にて洗へ又胸肩首の廻りに大根をオロシテ其汁るをぬれ是は二  
 時間置に三度ぬれ又足の裏らを鹽湯にて温めよ又足と手に酢を  
 ぬれ是は何れも日に三度三日間ぬれ又胸に酒をぬれ是は日に五  
 度二日間又玉子を酢とねりませて是を少し煮て食せ是は日に三  
 度の食事毎に玉子一個宛つ三日間は極く便通の悪敷婦人に良  
 し又櫻の花の鹽漬けを廿花酢と砂糖で煮て食せ是は一度でよし  
 又願ごを時々水にて拭け先づ是でよし天授

## 惡阻

### 八十五

是は悪兒を妊娠すると是多し是は體に悪氣を持つからの事にし  
 て善兒を妊娠すれば却而氣分晴々として快し是を人は知らず夫  
 で腹の小兒が悪性か善性か妊娠中に判明なり夫で此時には酢を  
 温めて腹部にぬるなり又頭の眞にも酢をぬるなり又胸腹全部に  
 白砂糖を湯にて溶きてぬるなり是は總て良くなるまで又頭を鹽  
 湯の中に少し酢を入れて此湯にて洗へ又胸を鹽湯にて蒸せ夫で  
 よし天授

## 寢小便治法

### 八十六

是は母より受し冷へより出るのである夫で是を速座に止めると  
 眼が悪くなるにより是は其毒を取切るにあり夫で此毒を取る  
 には酒を其者の腰と下腹に日に三度ぬるなり又同じ所に酢を同  
 じく三度ぬるなり是は其小便の止まるまで又酢を毎日盃きに一

杯宛つ飲め是も小便の止まるまで又頭手足尻を鹽湯の中に少し酢を入れて此湯にて洗へ是は毎日廿日の間夫で毒取れて一切良し是を必ず爲せよ夫で寢小便は無し又此者に玉子の皮百個と水二升是を能くクタクと此水が三四合と成まで煮詰めて此汁を十日間に飲め夫で全部良し又此者の母も此汁を飲みてよし夫で出來し兒は樂くを爲すぞよ天授

## 腦病

### 八十七

是は其起り數あり即ち胃病より來るあり又他の毒より來るあり夫で大體としては先づ全身の毒を取るにあり夫で教へて置く是は第一に頭を毎朝鹽湯又は鹽水にて洗ふてよし又胸手足を鹽湯にて日に三度拭くなり又臍を鹽湯にて洗ふべし又口を毎日鹽にて研がけ又酢を全身にぬり付て三時間の後ち鹽湯にて洗へ身を

清潔に爲す事又酢を飲め是は毎日盃き一杯宛つ廿日の間又前記總ての療法は廿日間爲すべし又全治まで男女交合りを慎むなり又人の申禁食物是は禁食爲すに不及何なりとも我れに好む物を食して良し是が天法なり又此病ひの者は味噌汁を多量に食せ味噌は腦を益す是を知りて置け頭は豆によりて成る是が體の素式にして眼は又是より成るにして腦の元は豆にして是を嫌ふてはならず必ず食せ又腦は百般を支配す夫で大元なり是を皆大事大切と爲せ是が腦病患者の療法であるにより皆心得て良し此外禁食爲すのは我れの口にまづいと思ふ物を食すな夫で良し天

## 逆上症

### 八十八

是は我儘より來るもあり又腰の冷へより來るにして是は體だ全體を害すにより夫で巨細に教へて置く先づ第一に我が儘を取り

横着者は此症の者と申てよし夫我れの勝手は誰も良し是は天の法に無し夫て天より御しかりを受く是を逆上症と知れ皆是は持つて居る慎む者には是は無し我が儘娘我が儘子息に多くある是は世の苦勞を知らぬからの事にして貧家の生の者には先づ無し夫が身弱くして居る者にはある是は冷へて居るからの事にして此冷へを取れば夫てよし夫て此療法は第一に身を温めよ又身を温めるに付ては婦は鹽湯にて腰湯を爲せ又極く冷へ性の者は辛らし湯にて腰湯をなせ又頭を鹽湯にて月に三回は必ず洗へ又胸手足を鹽湯にて毎日拭け又耳眼鼻是を鹽湯にて蒸せ又足の裏らに墨を極く濃くすりて是をベツタリとぬれ又婦人の前への中へシヨウガ是を極々細末に切りきざみて是に鹽を少し加へて是を極くやわらかな引きの強き丈夫な白紙に包みて丁度よき程の大

きさにして是を朝から晩まで晩から朝まで入れて居れ夫て體は極々温まりて身體健と成り困る事は少しも無し夫て是は毎日取替へるなり夫て(コシケ)(ナガチ)(シラチ)一切治すにより是を知りて置き又男としては腰を鹽湯にて能く洗へ又鼻に胡麻油をぬれ又頭手足を鹽湯にて洗へ又胸を鹽湯にて拭け夫てよし又男女共に酢を飲め是は毎日盃き一杯宛つ廿日間又胸より下腹まで酢をぬれ是は日に一度廿日の間夫てよし又前に記す療法は何れも廿日間爲せ夫て全部よし又極く是の重き症の者は此通りを五回爲せ夫て如何なる逆上症又如何なる冷へ性の者も必ず全治して健全體と成り稼ぐ事が叶ふにして是を國家安全の法と知れよ天の御教へ是也

後頭痛

八十九



是は胃より来る又冷へよりも来る夫て是は瘡毒として療法を爲せば夫てよし又此療法は多く腦をいじる是は役く不立夫て第一に頭に酢をぬれ又胸より下腹まで酢をぬれ是は日に三度三日の間又胸肩に大根をオロシテ其汁るをぬれ是も日に三度三日の間又脊に酢をぬれ是は日に一度廿日の間又胃を掃除する爲に大根をオロシテ其オロシと白砂糖とまぜて是をサジに三杯食せ是を日に三回夫てよし天授

### 頭痛

#### 九十

是は多く種類がある胃より来るもあり又冷へより来るもあり又凝りて来るもあり又考へ深くして来るもあり又諸毒より来るもあり夫て此者は多く心さわがし是を罪みといふ能く心得てよし夫て何より天にすがるを第一と爲せ又其天にすがり方は眞の心

より一心以て天の親様とすがれ夫て直ぐに取りてやる又酢を飲め是は毎日盃き一杯宛つ廿日の間又頭胸腹全部に酢をぬれ是は日に一度廿日の間又度々入浴を爲せ夫てよし天授

### 肩張

#### 九十一

是は多く凝りにして是は病ひの出る初じめなり夫て早く此療法を爲せ胸腹全體に酒をぬれ又頭と肩胸と脊に大根をオロシテ其汁るをぬれ是を何れも日に三度十日の間又腹部全體に酢をぬれ是は寝る時にぬりて寝よ是を十晩又手と足を鹽湯にて洗へ是を日に一度三日間又酢を飲め是は毎日盃き一杯宛つ廿日の間又尻腰を鹽湯の中に少し酢を入れて此湯にて洗へ又腦を此同じ湯にて度々洗へ夫てよし天授

### 齒痛

#### 九十二

是は多く冷へより來るにして逆上してならず是は下が冷へるからの事にして是を治すには鹽を口にてかみて其唾きと共に其痛む所の頬にぬるなり又鹽と御飯と能くねりて是を白紙に延ばして其痛む所の頬に張付よ夫で直ぐに痛みは治す又心にて天の親様とすがりつゝ、左の手にて押へ居れば是又直ぐに治すぞよ是を天法と知れよ天の御授けは是なり皆知れよ又此時に大根をオロシテ其汁るを胸肩頭首全體にぬれ是を日に三度三日間ぬれ夫で全部よし是を十三病防せぐの法と知れよ今日は是を教ゆ天授

### 百日咳

### 九十三

是は親の毒より出す夫で此時には第一に天の親様と眞の心にて其親すがり頼め又療法は其者の頭と胸を毎日三度鹽湯にて拭け又足と手を鹽湯の中に少し酢を入れて此

湯にて拭け又當人に白砂糖湯と鹽湯を交代に飲ませろ又糸瓜の殻を煎んじて飲ませろ此時に白砂糖を入れて良し夫で治すぞよ又糸瓜の生まのある時には其汁るに白砂糖を入れて飲ませろよ夫で治すそよ天授

### 鼻病一切

### 九十四

是は鼻全體に鹽を口にて噛み其唾きと共に鼻全體にぬり付て其上より鹽湯にて蒸せ夫でよし是を日に三回十日間爲せ又頭を一日置きに十回鹽湯の中に少し酢を入れて此湯にて洗へ又婦は前へと尻男は辜と尻を此同じ湯にて毎日廿日の間洗へ夫で良し是を鼻の悪敷者は皆爲せよ夫で困る事はないぞよ天授

### 中風

### 九十五

是は氣の凝りより來る又酒飲みにもある是は血液を粗にするか

らの事にして是は先づ大害病と申てよし夫で長し今是を天の親  
即ち

伊勢大廟が教へ置くにより此療法を爲せ夫で毎朝顔と共に頭を  
鹽水又は鹽湯にて洗へ又胸も此時に拭け又手足を鹽湯の中に少  
し酢を入れて此湯にて洗へ又胸より下腹まで酢をぬれ又酢を飲  
め是は毎日盃き一杯宛つ又頭全體首肩にも酢をぬれ其後とを  
鹽湯にて洗へ又大根をオロシテ其汁るを頭から足の爪先きまで  
總身残り無くぬれ是を日に三度廿日間又咽喉部に白砂糖を湯に  
て溶きてぬれ是も日に三度廿日間又此外總ての療法は全快まで  
爲せ又年中可成鹽湯に入浴を爲せ夫で七十日にして治す天授

レウマチス

## 九十六

是は神經の作用にして是を病む者は總て心多し是を馬鹿といふ

此馬鹿は何時つになつても賢しこくはなれず是を一生の損んと  
いふ是を我れの心一つにして賢しこくなれるなれど我れの心が  
治まらず是を業病といふ是を取るには先づ其者の心より改めね  
ばならず是を多くは障りにして其障りは因縁因果にして是を縁  
故の者の靈に寄られてなり是は薬り又醫者では治せず是ぞ天に  
すがるの外は無し即ち其天にすがり方は一心不亂となりて眞の  
心より

天の親様とすがるなり夫で三日にして治す是を今  
天が教へて置くにより是を必ず爲せ夫でよし又此病ひは所々痛  
むにより其痛む所に酢と白砂糖を湯にて溶きて是を交代に二時  
間毎にぬれ夫で痛みは速座にして去るにより是を知れ又是は一  
時の痛みを取るのであるから又痛む夫で根治方は一心に

天の親様とすがるのつにして此外に無し是を皆心得て世を渡れ是を賢者と申ぞよ皆眞に心得て置け又何れの病氣を不問皆是にして悪敷者の障る故にして諸病共に是なり夫で天の親様と心にてすがる者には一切病氣は無くして一生面白し皆是を心得て日暮しを爲せ  
 天の御情けは是であるぞよ是は萬般に渡りて善き事の來る法であるにより皆眞の眞の心より  
 天の親様と申てすがり頼めよ是を日頃常に忘するなよ  
 天の御申附は是也

## ハシカ

## 九十七

是は總て皮膚の毒にして其元は胃なり夫で此病ひに罹りたら胃の所を鹽湯にて蒸せ又咽喉ども同じく鹽湯にて蒸せ是を晝夜に

して五六回三日間又頭と手足を鹽湯にて能く拭け又胸より下腹まで白砂糖を湯にて溶きて是を日に三度三日間ぬれ夫で入浴は全治まで爲すな又顔を鹽湯にて靜かに拭きてやれ夫でよし天授

天然痘ホッヅ

## 九十八

是は人事百般百毒と成る悪熱邪熱の王といふ古しへ神漏氣といふ悪王居りて此毒を此大日本國に施したり是は多く脇の下より出ず夫で脇の下は不潔にして是を尻股に同じ是を悪氣の寄る所にして是は下々の下の悪氣物が來て是に寄る夫で邪熱を出してなり是がホウソウの元にして是は病氣といふよりも悪邪病と申てよし夫で是の司さは古しへより人の知る讃岐金毘羅にして是を悪王邪王魔王にして是を天然痘の神といふ是は古しへの神漏氣の再生にして是は紀州熊野神社の元にして元は是より出しな

り夫で天然痘の神は其數八十六億九千七百八十三萬九千七百九十六疋居りてなり是を何れも悪玉明神といふ是は世にて付し名にして是を人害者と知れ夫で此天然痘と申ものは來る大正十六年の頃より全く無しとなりて人も樂くを爲す是は又如何なる譯であるやといふに是は時が來て此悪玉明神は一切消滅なり夫で無しと成る又此大日本國には是等の者共を置くべき所では無し是は古しへより五濁悪世となりて是等が皆蔓りてなり夫で人は苦を重ねてなり夫が時が來てすつかりと無くなるにより夫で悪敷病ひも無くなりてなり是を大正十六年よりと知るなり又此病ひに罹りたら酒を少し呉れてやれ夫で早く治す又酒は五勺程大地に投げてやれ夫でよし又病者には少し水を飲ませ又湯を飲せ又粥ゆを食さしてよし又出し躰には酒又は味噌をぬれ夫でよし

今是を

天の親が教へ候により此通りに致せよ夫でよし又是に類似のハシカ病も是等の業ざにして又熱病と稱する病ひは十中の九九九までは是等悪玉の業ざにして是は悪氣王にして恐ろしきものであるぞよ能々心得てよし善人の王は天にして悪の王は神漏氣であるぞよ

天璽

汗<sup>アキ</sup> 疣<sup>ウ</sup>

九十九

是は皮膚に毒ありてなり是は眞に毒ある故にして是は多く母よりゆづりの毒にして是は多く(シヨウカチ(コシケ)のある婦の産みし子供に多し夫で此毒を取るには酢を體だにぬりて三時間の後ち鹽湯にて體だを洗へ又酢を飲めばよひが小兒は是を飲まず夫

て頭と尻に酢をぬりて其後とを同じく鹽湯にて洗へ是てよし是を毎日十日間は必ず爲せ夫てよし天授

脾臟 百

是は眞の疲れにして是は心臟の餘液にして是は眞を良くすれば夫てよし又眞を強壯にするには第一辛らき物を食せ是は○生薑○山葵○辛らし○唐辛らし○の類又○芋○蓮根○慈姑○無花果○是を心にかけて食せ又甘き物も少し宛つ食せ又禁食物としては瓜の類又蜜柑の類是は全治すれば少しは食してもよし又大小便の出る所を鹽湯の中に少し酢を入れて此湯にて毎日廿日の間洗へ又胸と脊に酒をぬれ是は日に三度廿日の間又頭の眞に鹽と頭に付る油と能くぬりませて是を日に三度廿日の間ぬれ又胸と腹との境ひ水落ちと稱する所に酢をぬれ是は日に三度廿日の間

又兩脇腹に酒をぬれ是も日に三度廿日の間又手足を毎日鹽湯にて拭け又入浴は餘り爲さぬ方がよし又顔全部を鹽湯にて度々拭け夫て全治す天授

麻痺 百〇一

是は總てに其純血欠乏なり夫て是と成る夫て是を治するには此本の中にある腦貧血症と同じ療法を爲せ夫てよし食す物も是と同じ夫て丈夫と成るそへ天授

風土病 百〇二

是は世にて俗に申水がわり病にして所かわれば水又かわる夫て永くなれし水と違ふにより夫て體に變りあり夫て此病ひに罹りし時は鹽湯を多分に飲むを良とす又頭を水にて洗へ又胸を水にて拭け又手足を鹽湯にて洗ふ様にして拭くなり夫て三日も經過

すれば夫で治す能く心得てよし三年に一度は此病氣あり是は三年にして世の一週り夫で風土氣候が變るにより夫で是なり又六年目には其元の氣となりて同じなり是を能く御承知あれよ天授

書 瘧

百〇三

是は腹が痛むと起りて來る夫で此療法は胸を鹽湯の中に少し酢を入れて此湯にて拭け又頭を此同じ湯にて洗へ又前へ尻擧も此同じ湯にて洗へ又手足も此同じ湯にて拭け是は何れも毎日廿日の間又胸と腹に白砂糖を湯にて溶きてぬれ是は日に三度十日の間又頭の眞に白砂糖と頭に付る油と能くぬりませて是を日に三度廿日の間ぬれ又酢を飲め是は毎日盃き一杯宛つ廿日の間又足の裏らを毎日特別に洗へ又食事を可成粥ゆと爲せ是は治すまで夫でよし天授

濕シツ

癬シゼン

百〇四

是は多く冷へを受けて出るにして是を地氣といふ地氣は悪氣にして大害を爲す夫で此療法は全身に酒又油をぬれ是は日に三度廿日の間は二時置きにぬるなり又頭に酢をぬりて三時間の後ち鹽湯にて洗へ是を日に一度廿日の間又玉子の白實と酢と能くぬりまぜて是を總身手足首頭共残り無くぬれ是は日に二度三日の間又尻前へ皁を鹽湯の中に少し酢を入れて此湯にて洗へ夫で治す天授

船フナ

暈ヨホヒ

百〇五

是は胃が悪しくして胸を苦るしめるからの事にして胃の良き者には是は無し又眞の疲れて居る者にもある夫で頭に水をぬり又胸と襟り首に酒をぬれ又顛ごの下にヌレシ手拭を當てよ又胸を



水にて拭け夫で良し

衄血

百〇六

是は又二種も三種もあり鼻の障子に熱ある爲にして是は多く逆上せてなり夫で足を水又鹽湯にて洗へ又胸を水又鹽湯にて拭け又手足を鹽湯にて拭け是を三四回夫でよし又此者は年中鹽水又は鹽湯にて頭を洗へ又酢を飲め是は毎日盃き一杯宛つ廿日の間夫でよし又胸に酢をぬりて後ち三時間を経て鹽湯で拭け夫で後ち出る憂ひは無し天授

瘰癧

百〇七

是は筋と肉との間にある毒にして筋を犯す夫で血液を阻止するからの事にして是は祖の譲りにして是は瘡毒より來るにして是は又軽くして重し夫で此療法は第一に胸を酢にて拭き又酢を飲

め是は毎日盃き一杯宛つ廿日の間又重き症の者は六十日間飲め拭くのも此日限中爲せ又酢を總身にぬりて三時間の後ち鹽湯にて洗へよ是を一日置きに十回爲せ又頭の眞に酢と鹽とまぜて是を日に三度廿日の間ぬれ又口を鹽にて研がけ又尻、前、臍、を鹽湯の中に少し酢を入れて此湯にて洗へ是は毎日廿日の間又胸より下腹まで大根をオロシテ其汁るをぬれ是は日に一度十日の間又手足を毎日鹽湯にて洗へ是も廿日の間又其出し所に此大根の汁るを晝夜にて十回三日間ぬれ夫でよし天授

トクト病<sup>ヒョウ</sup>

## 百〇八

是は多く毒ありてなり此毒が頭に登りて其肉皮を腐敗らすにより夫で頭の地に黴菌が生じて毛の根を喰ふにより禿げ頭と成る是は黴毒者に多し夫で是に付ては第一頭を酢にて洗ひ其後とに

鹽を口にて嚙み其唾きと共に頭にぬるなり夫で三日にしてよし  
又此人は大體の毒を取るにあり夫で酢を毎日盃き一杯宛つ廿  
日の間飲むなり又胸より下腹まで酢を日に一度廿日の間ぬるな  
り又眼耳鼻を鹽湯にて蒸すなり又大根をオロシテ其汁るを頭  
全體にぬるなり是は日に一度廿日の間其てよし天授

指瘡

百〇九

是は總て眞の疲れより來る夫で此病ひに罹りたら鹽を口にて嚙  
みて是をぬり付て紙にて包みて置け又頭を水にて洗へ又婦人な  
れば前へを鹽湯にて洗へ又男は辜を鹽湯にて洗へ又胸を鹽湯に  
て拭け夫でよし天授

シモヤケ

百十

是は小兒に多し是は皮膚の毒にして是は多く母のゆづりの毒に

して是は色々成る夫で此療法は第一體だ中に酢をぬりて三時間の後ち鹽湯にて洗へ是を日に一度十日の間又胸より下腹まで酢をぬれ是は日に三度三日の間又酢を飲めばよいが小兒は酢を嫌ふにより是を飲むなら毎日盃き一杯宛つ十日間飲め又酢を飲まぬ者は白砂糖を廿匁目小なる鍋にて眞黒に成まで燒きて是に水二合を加へて是が五勺となるまで煮詰めて此汁る丈けを三日間に飲め夫でよし又シモヤケの所を鹽湯にて蒸せ是は日に何回でも多く爲す程よし是は全部治すまで是で後ちの憂ひは無し又毒多くして再び出たら又此通りに爲せ夫でよし天授

タムシ

百十一

是は多く胃腸の悪敷者にあり又極く重きは微毒にして是はあぶなし夫で此療法は酢と白砂糖とまぜて是を少し煮て是をぬるな

り又此酢を飲め夫で日に一度宛つぬれば輕るきは三四回ぬればよし又酢を飲むのは毎日盃き一杯宛つ十日飲めば是で全治す又重きは此本にある微毒の療法を爲せ夫で全治請合なり天授

### 小兒頭疥

### 百十一

是を治をすには其小兒の全身に酢と白砂糖と少し煮て是をぬるなり是を頭にもぬれ是を日に三度十日の間又是をぬりて三時間の後ち鹽湯にて洗ひ落とせ又年中其小兒の尻を鹽湯の中に少し酢を入れて此湯にて洗へ夫でよし是は其子を産みし母の不性より起る事であるにより産婦たる者は分娩爲すまで前へを毎日何度となく鹽湯にて洗へ又婦人といふ者は何時つにても前へを鹽湯にて洗へ是が婦のたしなみにして是を第一の衛生にして是を萬害を除くの大法であるにより皆是を知りて爲せよ夫で其夫も

害を受けずして樂くなり家の害は是より來るにより皆心得て置  
 け又男たる者は妻に是を嚴敷申付よ是を人體不變の法にして是  
 が大事又大事の事であるぞよ又眼病、ツンボ、鼻口、脊髓病、此外各病  
 是より出るにより皆心得て此衛生を守れ、守らせよ夫婦の心得是  
 也天授

フキデ物<sup>モノ</sup>一切<sup>イツサイ</sup> 百十三

是は總てに十三種あり第一微毒、瘡毒、風邪熱、其他種々より來るな  
 り夫で何れの毒より來るも此療法を爲せば夫でよし  
 一、梅酢(是は紫草のはいらぬ生酢)是と竹の油とまぜて是を日に三  
 度三日間ぬるなり夫で竹の油を取るには青竹を美れひに洗ひ一  
 寸程に切りて是を細まかに割て是を梅酢の中に入れ凡ソ一時間  
 程煮るなり夫で竹の油は取れてなり又量としては竹の割たのを

二十日酢一合是を量としてよし又酒を一時間煮て是を水一合とまぜて是と前記の酢とまぜ合して是を極少量宛つ飲め夫で煮る酒は極く清酒を二合とす又頭の眞に酢をぬれ是は日に三度廿日の間又手足を日に何度となく鹽湯にて洗へ又口を鹽にて研がけ又尻を鹽湯にて洗へ是は全治爲すまで又耳より顚にかけて酢をぬれ是は日に三度廿日の間又日に三度胸に酢をぬれ是は十日の間又脊の中程に酢をぬれ是は日に一度廿日の間是でよし是を皆守りて爲せ夫で全治す天授

腫物一切

百十四

是は人の氣の凝りにして是を血管の不通より來る事にして是は其上に酢をぬりて又鹽湯にて蒸すなり夫で總てに調和して全治す此手當法は總て十度夫でよし又吹き切て毒出るにより其後と

を鹽湯にて洗へ夫で蹟と不付總て是を切るは悪るし可成切るな  
よ切ると大きな切り跡ときずが付くぞよ又刀の毒を受けて惱や  
む事あるにより可成く切るなよ傷口は必ず鹽湯で洗へよ天授

**肥胖症**

**百十五**

是は大體に於て氣にゆるみあり夫で是なり是は又馬鹿に多し夫  
で大根をオロシテ其汁るを全身に日に三度ぬれ是を一ヶ月又酢  
を飲め是を毎日盃きに一杯宛つ廿日間是を三度即ち六十日間又  
手足を年中鹽湯にて拭け又口を鹽にて研がけ又前へ、尻、臍、を年中  
鹽湯にて洗へ又頭も年中鹽湯にて洗へ夫でよし天授

**皮膚硬化病**

**百十六**

是は變體身に起る是は何れも毒にして是は大熱毒にして是を治  
するには先づ其者一代にては六ツケ敷其譯けは全身此毒で充滿



くゝて居るにより全身丸で毒なり夫で此毒を取ると體は無しとなりて此世の者では無し夫で先づ此病ひ出し時は我れにあきらめて其日くゝのおぎないをなして居るの外は無し夫で補ひとしては先づ薬りは無し夫で白砂糖と鹽と湯にてねりまぜて是を體にぬり付燥きたらぬり是を何度と無くして凌げ夫で自然皮はやわらかとなりて楽くなり此外に無し天授

甲狀線腫

百十七

是は竹の油を取りて其所に付るなり夫で三日にして治す又竹の油を取るには青竹を能く洗ひて其竹を火の上に乗せ其出る油を半紙にて拭き取り其紙を其病ひの所に張付て其上を布にてしぼり置くなり夫でよし又此時に酢を毎日盃き一杯宛つ十日間飲め又胸より下腹まで酢をぬれ是は日に一度廿日の間又手、足、前、尻、

辜、腰を鹽湯の中に少し酢を入れて此湯にて洗へ是は毎日兩三回  
 十日の間又口を鹽にて研がけ又頭の眞に酢をぬりて三時間の後  
 ち鹽湯にて洗へ是を日に一度十回爲せ夫て後との憂ひは無し又  
 竹の油は十回爲せよ天授

腐骨病 ホネノクサレヤマヒ

百十八

是は總身に毒ありてなり是は總て其親より受けし毒にして體毒  
 是なり夫て此病ひに罹りたる時は第一其腐敗る所に日に三度廿  
 日の間酢をぬれ又酢を飲め是は毎日盃き一杯宛つ廿日の間又  
 玉子の實を黒焼きにして是を酢で煮て是を舐めよ其量は玉子五  
 個酢五勺是を量としてよし又頭を鹽湯にて洗へ是を日に三度廿  
 日の間又婦人なれば一日置きに十度洗へ又手足を毎日酢にて拭  
 け是を廿日の間又首の廻りに酢をぬれ是も日に一度廿日の間先

づ是てよし天授

### 臍腐敗病

### 百十九

是は其者の生れし時に臍のしまり悪敷者に出る病ひにして是は其臍より毒入りし爲にして是を多くは小便の毒にして此外は其廻りを不潔に爲したる所より起るにして是は其親の不注意に依る夫て此病ひに罹りたる時は臍を鹽湯にて蒸し其後とて鹽と白砂糖と能くねりませで是を付るなり夫て三日にして良し又臍は人の命ちなり是を餘りいじる勿れ大事は是なり能く心得てよし

### 雁瘡

### 百二十

是は俗に微毒といふ其毒の爲に來るのである夫て痲病に付ての療法を爲せば夫てよし又吹出たる所を鹽湯の中に少し酢を入れて此湯にて度々洗へ夫て治す天授

吐血時トクツキ

## 百二十一

是は肺より出るもあり又氣管破れて出るもあり是は其血色を異にす純血色なる時は肺より出しなり又黒くしてドン血色なる時は氣管より出しなり先づ純血色肺より出し時には第一茶を煎んじて是を胸の所に當て蒸す様に爲すなり是は元より茶の毒であるにより茶を以て呼出し其毒を去るなり又胸の所に酢をぬりて一時間の後ち又白砂糖を湯にて溶きてぬるなり是を交代に十度爲せ夫で此口癒やすなり又口を癒やしても其元を治せねばならず是は肺病療法の所を見て其通りに爲せ又鈍血なる時は氣管より出し血なるにより胸を鹽湯にて温め然して白砂糖を湯にて溶きて胸全體にぬるなり是を爲す事三回夫でよし又頭を鹽湯にて拭くなり又手足も同じく鹽湯にて拭くなり是を日に三度三日間

又足の裏を鹽湯にて拭くなり是も日に三回三日間是でよし又水は十日間飲むべからず是を禁物と知れよ天授

啞 オシ  
吃 ケリ

百二十一

是は何種もある親のゆづりあり又體だの毒よりにして體に不足あり是は多く血の故にして不順血ある者は是にして是は血の過ぐり悪敷してなり夫で此者に與ふ療法は第一體に酒と酢と交代に三時間置きにぬれ又頭の眞に大根をオロシテ其汁るを日に三度ぬれ是は先づ廿日間として是を三週り爲せ又胸と腹とに酒の粕を味噌と酢と此三種を能くすりまぜて是を白紙に延ばして張付よ是を日に一度廿日の間又耳眼鼻口是を鹽湯にて蒸せ是は日に何度となく多く爲す程よし又眼を鹽にて洗へ又男は辜婦は前是を毎日鹽湯の中に少し酢を入れて此湯にて洗へ是も日に何回

となく多く爲すを良とす又耳の穴に酢を少し宛つぬれ是は治す  
 まて先づ是でよし今是を天の親が教へ候により是を守りて爲せ  
 夫で十中の八九までは完全にして皆樂くなり是を知れよ天授

脹チヨウ 満マン

百二十三

是は腹部に水溜りてなり是は府の動きを失ひたるに依る夫で此  
 病ひに罹りたら酢と酒を交代に二時間置きに胸にぬれ是を三七  
 日の間日に三度又胸を鹽湯にて蒸せ是は日に三回廿日の間又尻  
 前傘を鹽湯の中に少し酢を入れて此湯にて日に五回三日間洗へ  
 又胸の水落ちの所に白砂糖と酢とまぜて少し煮て是を日に三回  
 廿日の間ぬれ又此酢を飲め是は毎日盃き一杯宛つ廿日の間又  
 頭の眞に鹽と頭に付る油と能くねりませて是を日に五回廿日の  
 間ぬれ又耳眼口鼻是を辛らき鹽湯にて日に五回蒸せ是は五日間

夫で良し今是を

天の親が教へ置くにより是を守りて爲せ夫で樂くなるぞよ天授

腹腫物一切

百二十四

是は○ヨウチヨウあり又○腹膜腫あり○タヒノウソウあり是は何れも其起りを異にす然れど毒は一つにして別つにかわりし毒のあるで無し夫で此毒の去る事を爲せば夫で良し是は總て人の毒にして是を性とといふ此性は何腫を不問皆冷へにして是は萬害を爲すものにして婦人病一切是なり夫で此癌腫病に罹りたる時は第一腹部を鹽湯にて温め又腹部全體に酢をぬり又酢を飲むなり是を何れも治すまで又酢を飲むのは毎日盃き一杯宛つ又脊にも酢をぬるなり是は何れも日に一度宛つぬるなり夫で其毒取れて全治と成る又頭を鹽湯の中に少し酢を入れて此湯にて洗へ

是は日に一度隔日に十回洗へ又前を同じ此湯にて日に三度廿日  
の間洗へ又胸手足是を鹽湯にて毎日治すまで拭け是でよし又總  
て婦人といふ者は毎日口を鹽にて研がき又前へを鹽湯にて洗へ  
是を女の衛生にして常に是を心懸けて爲す者は病ひは出ず是を  
能く心得てよし又此法は總て

天の教へであるにより必ず守りて爲せ夫で間違は無し是を能々  
心得てよし又

天は人を助くるなり是を知れよ此療法を必ず疑ふなよ夫で立羽  
と成れて何かと面白し是を知れよ又婦人として常に怒る又フク  
レル是は我が體に毒を増すにより務めて是を爲すなよ何んでも  
笑ふて其日を送れよ是を無病健全の人と申ぞよ皆世の者は能く  
心得置けよ



一、我が國は大日本國是を日の元の國にして尊き御國なり夫て天と申のは

伊勢大廟の事なり此

伊勢大廟は一番初ぢめの御父上にして是より古き御方は天地に無し是を

天の親様と申ぞよ皆是を知りて一心に心の中ちにて

天の親様と日頃常にすがり頼めよ此一つにて一切を助け遣すに  
より皆是を忘するなよ

天の御仰は是なるぞよ又人の生死は

天の御自由御自在夫て一心以て

天の親様と心にてすがる者には何事も無し一生無事安泰にして  
其日が送れるぞよ皆是を知りて日々此心を持ってよ又世に人を助

け呉れる者とは無し一切

天なるにより是を知れよ

天は親様であるぞよ

**吃逆**

百二十五

是は總身に熱つを持ち夫が爲に五臓の働きを害す夫てシヤツク  
リと成る世の諺にシヤツクリはピツクリで止るといふ是はピツ  
クリすると五臓が一時に騒ぐにより夫て止まるなり是は又起る  
夫て此吃逆りの療法は胸を鹽湯にて蒸せ是を十度程又手足總身  
及び頭首共に辛らき鹽湯にて拭け是てよし又鹽湯と白砂糖湯を  
双方十杯も飲め夫て良し天授

**水蟲**

百二十六

是は皮膚に毒あるにより夫て皮が腐敗れてなり是は前に示す汗

疣と同じにして是を體の毒といふ夫て此療法は毎日酢を盃き一杯宛つ廿日の間飲め又其水蟲の所に酢をぬれ是は日に三度治すまでぬれ又頭と尻に酢をぬれ是は日に三度十日の間又其後とを鹽湯にて洗へ夫てよし天授

## 癩病ライビョウ

### 百一十七

是は家の壞りであるにより其元を斷じて初づめて根治なり即ち其元は何より起る是は古しへよりある藁の虫を取りて此虫を黒焼きと爲し是を糖蜜の中に入れて二週間其儘と爲し置き是を少し宛つ舐め又全身にぬり付三時間の後ち體を鹽湯にて洗ひ落すなり胸を年中鹽湯にて拭くなり是を三年にして其毒取れて全治と成る夫て道々を歩行に付て足の裏に鹽をぬり付て歩行為すなり夫て足の裏より惡敷毒を出して自然消滅なり是が癩病患者の

療法にして此外に無し又頭手足總身全部を年中鹽湯にて洗ふべし是で良し又年中の飲み物としては砂糖と酢と煮て置きて是を日に三度少し宛つ飲むなり又酢を總身に月に三度は必ずぬり付て三時間の後ち鹽湯にて洗ひ落すなり是は身の清潔となりて人に其臭さきを嗅がせぬ様に爲すのである又男は辜を鹽湯にて能く洗ひ婦人は前尻を鹽湯にて洗ふべし又男女共頭を鹽湯にて洗ふべし是は月に三度は必ず洗へ先づ是ならば四五年にして美を呈す又後ちの憂ひは無し天授法是也

先づ是はこれで大尾として置きます夫て終に臨んで申て置くのは此本を見る人の心なり是は余りに樂くて總ての病氣が治をるから人様は是を疑ふ御方もあらん夫れは天の理を知らぬ御方であるにより是非は無し喰べて味じを知る人はよひが喰べずして

彼是は御無用に願ひます夫で此本を發行するに當りては數年の實顯によりて一般諸士方に是を御教へ申たひと存じて此度はを天即ち

伊勢大廟に祈願爲し漸くにして其御許しを得て又改めて此御仰を得たり夫で初ぢめて一冊として發行する運びとなりましたのである夫で見る御方よ是を了され給ひて御高見被下よ又天は一つとして違ひは無し是に依つて數百萬の人士を御助け申たのであるから一つとして誤りはありませぬから御安神あつて此療法をなされよ夫で必ず治しますぞへ是を鳥渡申て置きます又筆者即ち源海私しは數年間  
伊勢大廟信者にして源海と申號は  
伊勢大廟より頂きまして夫を號として居ります又是は大理由の

ある事其理と申のは古しへ眞言宗祖空海弘法と申人あり此人は天の命によりて此大日本國にいろはを教へしなり然るに此空海弘法は其いろはを解く事を知らず夫で我れ源海は此いろは四十七文字の理を解く事を

天より御教へに預り今此いろは四十七文字を解きて其理を人様に教へつゝ居るにして是を源海といふ號を頂きたるの故にして源海とは其源とを解き明かすといふ事なり夫で空海とは其小口を教へたる者であるにより夫で空ふなり是を鳥渡申て置きます又是までに此大日本國にも宗祖となりし方は數あれど其源を知りて居る御方は壹人も無しと

天は宣ふ南無阿彌陀佛といひ南無妙法蓮華經といひ其他あるとあらゆる宗祖にして皆其眞を知らずして申さば我れの學びて思

ふ丈を人に教へてなり又宗祖としての壹人親鸞聖人より八代に渡る蓮如聖人丈けは少し悟りの僧と申てもよし是は我れの心丈を知りし人にして他は皆悟り無しと

天宣ふ是を今は何んぞ其宗祖聖人なりと申て居る夫で聖人とは一切悟りの者をいふ世の末ぞ是非無し又世に神主といふ是が又神の何んたるを知るの士無し我れ神に仕へ候て今日にして滿三十年以上夫で漸く天地の道ちを教へ頂き今では

天の御説自由自在に得るの身進めば進む程奥深くして一切無言を守るの外は無し是を何れの御方も了されよ僅かな歴史を見て神の事鵜呑みにするは以ての外の事なり不徹底だらけにして一つとして備へは無し今の天理教が神の何んたるを知らずして十柱の神を我れに集めて是を天理教の神となづけて居る是が抑盲

目共の爲す事にして味噌と糞とを知らず夫で一つの宗教なりと誇り顔にして人にすゝめてなり是が知れずや世の者は實に淺なり〱活眼を開きて見る人無し此係員こそは御飾りにして皆盲目らの士何れ御所分もあらん未だ是よりは南無阿彌陀佛の方が少し良し然れど今は慾の士取る所は無し是ぞ世の末にして是非は無し是も何れ消滅時が來る實に御氣の毒に候

天璽

大正十四年三月十九日是を源海に書して

天宣ふして南

## 赤黒瘧除法

## 百二十八

是は何れも毒にして是を最も多き人にしては全身にあるもあり又此瘧は多く人の眼によく見へる所にある是ば天日によりて其色を變す是は戦ふの故にして隠くれし所は總て色薄すし又是は體の眞にあるによりたやすくは取れず夫て其眞の毒より取去りて取れるなり又是は其親の譲りにして是を親代々といふ夫て其毒が濃くなりてなり是は多くは人を泣かせし罪みにして是を人の恨みといふ夫て直ぐには取れぬぞよ是は人の執恨にして何代經過ちても取れるものでは無し是を取りてやるのは天にして是より外に無し是を今無常道に多しと知れ又是は如何して取れるといふに其恨みを天が取りてやるにより夫て取れるなり又是を取りてやるには其

者の心なり是が一心に天にすがの心あらば取りてやるなれど其心なき者には取りてやらず是は大罪であるにより夫て其様をして世に耻ぢを晒し然して其罪みは消滅となる故夫て取れるの時が来る是は何代の後ちであるや夫は知れず先づ十六代は取れず是を何故といふ十六代は人の三廻りにして三廻りは一週なり一週は人の思ひの切れし時是を知りてよし又是は天に於て其苦るしみを爲したるにより夫て許すの時なり是も心得てよし夫て是を取らんと思ふ者は先づ以て一心不亂天の親様と眞の心にてすがり頼め然して左の療法を爲せ夫て取れるなり

一、頭を毎日鹽湯の中に少し酢を入れて此湯にて洗へ又身體全部

を此同じ湯にて洗へ又耳眼鼻口を鹽湯にて拭け是を六週間又是を爲す間酢を毎日盃き一杯宛つ飲め又全身に酢をぬれ是は日に一回又大便小便毎に其出口を鹽湯にて拭け又頭の眞に鹽と頭に付る油とよくまぜて是を日に三度宛つぬれ又足の甲に酢をぬれ是は日に三度又此爲す療法は總て六十日間とす夫てよし今是を天の親がくわしく教へて置くにより皆是を守りて爲せ夫て人に耻ぢもかゝずして濟むにより是を難有と知れよ人は總て罪のあるもの是を知れよ天授

白雲取法

百二十九

是は酢にて毎日取れるまで洗へ又酢と味噌と能く搗鉢ですりて是を白紙に延ばして其所に張れ又咽喉に酢をぬれ又手足を毎日鹽湯の中に少し酢を入れて此湯にて洗へ又頭の眞に前記の味噌

を白紙に延ばして張れ是を何れも白雲の取れるまで夫て六週間にして取れるぞよ天授

喰合惡敷物

百三十

芋と瓜是は人と人との氣によりて戦ふにより夫て身を害す又寢言をいふ眞の疲れあり夫て惡敷是を忌むべし又心を大にす是は怒りにしてよろしからず是を知りてよし人の心は柔わらかを良とす

辛らしと桃

是は眼を害す夫て悪し又是を別けていふと桃は下人の性にして隱遁鬱となりて氣を粗にす夫て墮けてなり是を世の害といふ能く心得てよし又辛らしき物と桃は絶対に惡敷即ち山葵、生薑、蓼、唐辛らし、是の類皆惡敷心得置け是を馬鹿白痴の子を産む元と知れよ

### 大豆と胡瓜

是は心と心の戦ひなり夫で吐きを催す是を一年経ちて體だにし  
びれを覺ゆ夫で全身半身不隨は是より來る能く心得てよし總て  
食後三時間の後ちは何を食してもよし

### 鉈豆蓮根

是は辛らき目に會ふ其譯けは人の心は鉈豆にして是氣なり又蓮  
根は通をす是を縦横十文字に體だに龜裂を生じて三日又は十日  
の後ちに病む是は治せず夫で忌むなり又是は人の家に餘り作り  
てはならず是を鉈豆と知れ是は余り能くなし但し鹽漬味噌漬に  
して食せば害無し

### 苺と魚

是は夏出來る物夫で苺といふ物は余り食す物では無し是は人の

糞小便の氣にして害は多し其害は油に寄ると眼を損ず又鼻病口  
病出ず是は油の物と喰ひ合を除けば良し油と苺ごは大の敵物也  
夫で腦眼鼻口病は此喰ひ合より出ず又便通悪し氣を付てよし

### 鮪と茸

是は氣と氣陰と陽とは是にして其戦ひはげし夫で氣を粗にす又  
是は人の害甚だし是を、盲目、吃舌、釣り、耳鳴、鼻茸病、口中一切、此害を  
受く又梅干を食す時は直に消毒して害は無し能く心得置け又是  
を何時にても忌むが良し夫で苦るしみは無し

### 筍と山の芋

是は氣を害す其譯けは腹を下だす又氣を高めて喧を出す夫で悪  
し是は食後三時間にして食すれば害は無し

### 筍と稻荷鮓

是は小兒に悪し小兒は肉皮やわらかにして締らず夫で腑を害す  
 是を育たぬ子としてよし又寢小便を爲す一切冷氣と成るからの  
 事是を知りて小兒には此喰合を氣を付ろよ

### 鰻と梅干

是は又大の禁物なり舌を焼き身を裂くにして是は後ち治をらず  
 是を又教へて置く人の身は陽にして鰻は又陰の極く夫で其争ふ  
 事甚し是を身の害といふ是程恐ろしきは無し又此時に當りては  
 白砂糖を多量に舐めよ夫で消毒して良し然し可成此喰ひ合を爲  
 すなよ一時の害は一生に及ぶ能く心得候事

### 鯖及び脊の青き魚と茶

是は性と性とにして合ふの理なれども夫が又青色を呈して人は  
 病む是は鯖の青色は銀色にして是は人の聲ををつぶす又胃を縮

む又腸を大にして縮むを不知夫で腹膜を害して熱つを持つ是が  
 又所々に及ぼして遂ひに全身に渡りて害と成る茶は人の氣鯖は  
 海の氣地氣悪氣は是にして一般に冷氣を興ふ夫で全身冷へ渡り  
 て何事にも不自由勝ちとなりて遂ひに身を亡すなり夫で是を酢  
 に漬け又鹽漬けにすれば鹽又酢の力らによりて消毒す是を酢又  
 鹽を用ひざる時は百毒と成又味噌煮として食すれば害は無し味  
 噌鹽の功によりて無害なり能く心得てよし是は又鯖の事にして  
 此鯖を食したる時茶を飲むと其毒又顯れ出て身を害すにより此  
 時には茶を禁じて鹽湯を飲め夫で良し皆是を氣を付ろよ  
 又此外喰べ合の害は百種百害あれど是は  
 天が觀て可成害とならざる様爲して遣すにより三度の食事又人  
 會合の席にて食を爲す時眞の心にて



天の親様とすがりてから食せ是を無害の法といふ能々又能々心得てよし夫て如何なる物を食しても害は無し是を皆知れよ一生は是にて身を立る人なり能く心得置くべし

一、我れはならぬぞよ一切

天なり是を知りて萬事心にて

天に頼みて身を立ろよ必ず是を忘するなよ天授

### 犬猫鼠に噛し時の心得 百三十一

犬には人より食を與ふるもので無し是は獨口を爲すものにして是を犬といふ然ればなり人より食を與へ候時は其與へし者の罪となりて其者死して犬と成る是が天法であるにより世の者は心得てよし

一、犬は百毒を齒に持ちて居るにより是は鬼と申てよし又犬は總

て天狗の化したる者にして是を犬、狗と知れ夫て夜番を爲す又泥棒は是に多く邪魔をされ困るなり是は陰と陽との別れの者にして犬は陰なり夫て陽是は陰の極くなるにより夫て陽に近し是は其元は木の極々朽ち氣より出しものであるにより夫て陰の極く又是は人の氣の集りしものにして是は氣木の氣なり夫て天是を少し教へて置く夫て犬に噛まれし時は第一鹽をぬり又砂糖をぬり然して鹽湯にて洗ふてよし夫て後ちの害は無し又ハレタル時は既に其噛まれし者の體にある毒を呼びたるのであるにより鹽湯の中に酢を入れて此湯で洗へば夫て癒す又此時に腦を鹽湯にて洗へ是を後ち憂ひ無しの法にして障りは無し皆是を知れよ又猫に噛まれたら茶を以て洗へ夫てよし又鼠に噛まれたら酢と砂糖と混交せて是をぬれ夫てよし是は一切の消毒法であるぞよ又

猫と鼠は元縁の者にして是は猫が上なり又鼠は猫より六百年遅  
 そし是を知れ夫で猫は何故鼠を取る是は我れの子を喰ふにして  
 鼠の親は猫にして是が又妙夫で猫が下なり又其譯けは猫は人に  
 物を貰ひて喰ふ鼠は獨りて喰ふ是が元にして是非は無し夫で鼠  
 は元人にてありし事あり猫は何千萬年經過ちても人とは成れず  
 昔し猫が人に化けし事あり是は其年限によりて人の眼を弄す夫  
 で人には猫に見へず是は又魔と申て百害を爲す人を喰ふ事限り  
 無し是が猫の性にして古しへ此世の中に白子黒子なる者あり是  
 は時によりて此地に湧く者にして是は雨の夜が七十九日續くと  
 地の悪氣より生じて初ぢめは綿の如き極純白の虫にして夫が化  
 し化して遂ひに九十六年目に人の體を爲し是は極色白にして  
 後ちに白髪なり是は今でも所々に居りて人に忌み嫌われてなり

是が猫の元にして是を古しへの天御仲主が天の命を受けて此世  
 に出て是を退治爲したり是が鐘馗にして是が天御仲主の蹟象に  
 して是が世なり夫で世に於ては此天御仲主を神の王の様に思ふ  
 て居る是は無理も無き事太古よりの歴史を知らぬからの事にし  
 て世はそんな淺きものでは無し是を皆知りて置け世の古るさは  
 今大正十四年より申と九千八十六圭〇〇〇〇八十九萬二千九  
 百六十九年にして此數を算するには太陽の大ききなり其元は一  
 りん經今は九千八百六十九萬里方にして是は百年毎に一尺經を  
 増す是を知りて置け是は又餘事であるにより筆を止む又猫とい  
 ふ者は極々陰の極くなるにより夫で寒むし猫の温る時は晝の十  
 二時此時一刻なり是は陰に移るの時夫で暖ありて此外は無し又  
 猫は鼠を取り喰ふ是は鼠は弟にして猫は兄又鼠は猫を嫌ふ是は

性を異にす夫で嫌ふのである又猫は七年毎に登りて行く段々と耳を大にす是は法を使ふの具にして總て獸の類ひは是なり即ち狐是は尾を大にす狸又腹を大にす是登りて體きかずと成る是が天理にして人も七十歳と成ると體は十分にきかず是を知りてよし又猫といふ者は元より因も縁も無きものであるにより夫で人とは成れず是を陰の王といふ是が世なり又猫として人と成るあり是は多くの人を喰ひて其人の氣が染りて人と成るあり是はホシノ人といふ丈にして何んの役に立者では無し極くの隱遁者にして店番男是なり又婦としては極くの極の姪婦たり是を猫の性と申ぞよ又鼠は猫の弟なれど是は人と成るに近し是は多く米を食すからの事にして米は人の食物なり夫で早く人に化す又鼠の性は犬の糞にして是より出し虫の化せし者にして是は七千年

て鼠又七千年で鼯又四萬年で犬夫より五六十年で人と化す是が道ち又猫に取られて喰はれるのは犬と猫の故にして猫は陰犬は陽夫れ戦ひにして是が世夫で猫も犬には不勝て夫親と子の故にして鼠は負けてなり夫で鼠も六十年を経ると猫には取れず猫は鼠の一睨みにして縮む是功にして年を経れば皆是也夫で人は尊し神を除きて年功者は人にして是より上は無し是を皆知りて置けよ是が世の順であるにより一切の理を辨へ置け

天璽

毒蟲に螫れし時の心得 百三十二  
百足

是は毒蟲の玉にして是より毒の多きものは無し是を世にて百足でといふ是は何故である是は昔し陰の時代には是が多く居りて人

を取つて喰ひし事あり夫で百足の名あり是は人が恐れし名にして是は眞の名にはあらず是を國祖といふ是は陰時代の者であるにより夫で國祖と申なり陰の王は是にして此上の陰物は無し是が又人と化すにして是は何んとも致方の無き者にして是を毒者と知れ婦にして是多し是は陰物であるにより夫で婦に多し是は多くの男を殺ろす是は毒の故より皆男はしてやられてなり此者は多く口を開きて居るにして締りは無し夫が七十九代にして口を閉さぐ夫で一代にして先づ男を九人殺ろしてなり夫で段々生れ來て人一萬を殺ろす夫より男と成る是を知れ是は男を度々殺ろして其力らが其者に移つりて男と化すのである皆是を知りて置きよ人といふ者は何れも是にして

天の御法規を知りて居る者としては少くなし夫で世にて人に害を

爲す是を今の世に多ふしと知れよ五濁惡世は是なり又百足といふものは人に害を爲す是に少し觸れると身體に其毒うつりてなり是を毒王と知れ又人にしては是の化したる者は何れも毒があるにより是を人に移つしてなり夫で皆死す是を知れよ今此大日本國中に此百足より化したる婦人六萬を算す又男九十七人居る夫で是に觸れて年々歳々死す者二萬を出す實に困る時にて候夫で近き未來に於て

天が是を掃除爲すにより是を知りて居れよ即ち此掃除法としては年々歳々極暑又極寒によりて死す是は毒體なるが故に其毒が沸きさわぐにより夫で死す是が

天の御掃除であるぞよ是を皆知りて置きよ又百足に螯れたら直ぐに油をぬれ又砂糖をぬれ是を交代に十度ぬれ夫でよし是を後